

30年後の兵庫の未来を語り合った

# 兵庫の未来を 考える

新ビジョン検討県庁若手職員意見交換会



**HYOGO VISION 2050**

2021.9

## 目次

|    |                 |    |
|----|-----------------|----|
| I  | 意見交換会           | 1  |
| 1  | 開催概要            | 1  |
| 2  | 意見の概要           | 2  |
| II | 事前課題            | 5  |
| 1  | 課題              | 5  |
| 2  | 結果概要            | 6  |
| 3  | 注目シナリオとその理由     | 8  |
| 4  | MY未来シナリオ        | 33 |
| 1  | 個性の追求（40シナリオ）   | 33 |
| 2  | 開放性の徹底（7シナリオ）   | 39 |
| 3  | つながりの再生（25シナリオ） | 41 |
| 4  | 集中から分散へ（44シナリオ） | 45 |
| 5  | 美の創生（7シナリオ）     | 51 |
| 6  | 次代への責任（17シナリオ）  | 53 |

# I 意見交換会

現在、兵庫県では、30年後の2050年を展望する新しい将来ビジョンの検討を進めています。その一環として、兵庫県庁の若手職員を対象に、「兵庫県将来構想試案」を素材として、兵庫県の未来を考える意見交換会を開催しました。

## 1 開催概要

これからの県政を担う県庁の若手職員の意見を聞くため、本庁、県民局・県民センターの延べ128名(事前課題の提出はあったが当日欠席の3名含む)に参加いただき、意見交換会を開催しました。

### (1) 庁内若手職員意見交換会 (27名)

各部局から推薦いただいた本庁若手職員に参加いただき、開催しました。

- ①参加人数 27名 (5グループに分かれて開催)
- ②開催日 6/22 (火) (グループ3) ,6/29 (火) (グループ4、5) ,6/30 (水) (グループ1、2)
- ③場 所 兵庫県民会館11階1101号室

### (2) 地域ビジョン担当職員意見交換会 (10名)

各県民局・県民センターから1名ずつ地域ビジョンの担当者に参加いただき、開催しました。

- ①参加人数 10名 (当日1名欠席)
- ②開催日 6/28 (月)
- ③場 所 オンライン開催

### (3) 県民局・県民センター若手職員意見交換会 (91名)

県民局・県民センターごとに、概ね入庁3～6年目の職員に参加いただき、開催しました。

| 地域  | 参加人数         | 開催日      | 場 所                    |
|-----|--------------|----------|------------------------|
| 神戸  | 6名           | 6/1 (火)  | 新長田合同庁舎7階会議室           |
| 阪神南 | 9名           | 6/22 (火) | 尼崎総合庁舎別館2階大会議室         |
| 阪神北 | 10名          | 6/2 (水)  | オンライン開催                |
| 東播磨 | 8名 (当日1名欠席)  | 6/28 (月) | 加古川庁舎2階AB会議室           |
| 北播磨 | 10名 (当日1名欠席) | 6/11 (金) | 社総合庁舎別館4階4A会議室         |
| 中播磨 | 10名          | 7/13 (火) | 姫路総合庁舎姫路職員福利センター3階大会議室 |
| 西播磨 | 7名           | 6/30 (水) | 西播磨総合庁舎2階応接室           |
| 但馬  | 10名          | 6/11 (金) | 豊岡総合庁舎多目的ルーム           |
| 丹波  | 11名          | 6/18 (金) | 柏原総合庁舎柏原職員福利センター1階会議室  |
| 淡路  | 10名          | 6/9 (水)  | 洲本総合庁舎3階会議室            |

## 2 意見の概要

庁内若手職員と地域ビジョン担当職員の意見交換会については、グループごとに、出た意見をもとに一つのめざす社会像を描きました。県民局・県民センター分は主な意見を掲載します。

### (1) 庁内若手職員意見交換会

#### グループ 1

##### めざす社会像

『多様な選択肢が「自由」な生き方と「快適」な暮らしを支える』

##### (実現に向けて必要な要素)

- ・自分らしさを追求できる、静かに暮らすことも選択できる自由
- ・人生を楽しむために働く
- ・リタイアしても生き方を選択でき、いきがいを持つ
- ・コンパクトで便利な暮らしの空間でも住まいは一つじゃなくてもいい
- ・バーチャルやテクノロジーを生かす
- ・介護、医療、子育て、災害対策などへの安心が、充実感ある暮らしを支えている

#### グループ 2

##### めざす社会像

『多様な人材が内外から集積 強い産業が暮らしやコミュニティを活性化』

##### (実現に向けて必要な要素)

- ・地域産業の発展により人やコミュニティが活力を持つ
- ・この地域に行けば何かができると思わせる期待感がある
- ・データ・デジタルで最先端の産業を創出する
- ・地域に多様な人材を生み出し生かす
- ・学校教育は体験だけでなくビジネスを実践する場に
- ・コンパクトな地域空間に自然、歴史文化、教育、産業、サービス

#### グループ 3

##### めざす社会像

『誰もが自分が「幸せだ」と感じることを選択できる社会』

##### (実現に向けて必要な要素)

- ・誰にとっても不自由がない、誰からも強制されることなく、咎められることもない
- ・人々の心に余裕があり、思いやる心がある
- ・挑戦して失敗してもセーフティネットがあり、学び直しができる
- ・世界的視野で社会を見ることが出来る
- ・芸術に触れる機会にあふれている
- ・変化する価値観に柔軟に対応できるビジョンがある

## グループ4

### めざす社会像

『パラレルキャリアで「好き」を「しごと」にして“ゆったり”暮らす』

#### (実現に向けて必要な要素)

- ・ 時間、場所に縛られない自由な働き方
- ・ パラレルキャリアの形成が容易な副業も含めた自由な働き方
- ・ 増えた自分時間を活かして好きなことで稼ぐ暮らし
- ・ 人生の選択の自由につながる住まいの選択の自由
- ・ 地域を支える副業を絡めた新しいボランティアの仕組み
- ・ 普通の暮らしが環境に優しい社会を創る

## グループ5

### めざす社会像

『好きな場所で、自立しながら健康に生きることができる社会』

#### (実現に向けて必要な要素)

- ・ ICTやロボットなどの技術を最大活用、加齢や身体性を補完する技術の活用
- ・ 生活利便施設の充実、新たな移動手段の普及
- ・ 人とのほどよい距離感があり、ゆったりした空間づくり
- ・ 移住者だけの新しいまちをつくる
- ・ 住民主体の自立的な活動とそれを支える役割を担う行政
- ・ 人生に彩りを与える芸術文化に触れるきっかけづくり

## (2) 地域ビジョン担当職員意見交換会

### めざす社会像

『兵庫五国で 望むライフスタイルを選択 多様な価値観が共存』

#### (実現に向けて必要な要素)

- ・ ライフステージで棲み分け、兵庫五国それぞれの暮らし方が見つかる
- ・ 自然とテクノロジーが両立している
- ・ 都市や田舎の暮らしや各地の魅力を知る機会にあふれている
- ・ 多様な人材がいて 新しいビジネスを生むインセンティブがある
- ・ 農、エネルギー、アートなど さまざまな地産地消がある
- ・ 自分の力や役割を発揮できる居場所がある

### (3) 県民局・県民センター若手職員意見交換会

各地域の資源を活かした取組の提案など、地域の特徴を踏まえた多くの意見をいただきました。

| 地域  | 主な意見   |
|-----|--|
| 神戸  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・六甲山の空き施設を活用した、企業誘致、ワーキングスペースの整備</li> <li>・北区や西区は自然が多い、沿岸部は灘の酒があるなど各区の特色をPRすべき</li> <li>・都市近郊農業ならではの経営ができる事が神戸の強み</li> </ul>                  |
| 阪神南 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害をなくし、天候をコントロールする技術開発によるエネルギーへの二次利用へ</li> <li>・阪神間は個性豊かな地域が幅広く点在しているが、相互発展させる取組が少ない</li> <li>・西宮はスポーツ選手が多く住んでいる。スポーツの街を掲げてはどうか</li> </ul> |
| 阪神北 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギーをうまく活用して新しい里山の姿を確立できたらいい</li> <li>・子育てしたい人にとって、身近に自然があり都市でもある阪神北は魅力的な地域</li> <li>・次世代の余裕を生むために、農地を山に戻すなどの施策も必要</li> </ul>           |
| 東播磨 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・娯楽など生活を充実させる部分の地域差が小さくならないといけない</li> <li>・都会に住んでいても田舎にある田んぼや畑の維持管理ができれば良い</li> <li>・オンラインで住民の声を聞けば、地域を自分たちでつくっている意識が育まれる</li> </ul>          |
| 北播磨 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人口を増やすのではなく、人材を増やすこと」が大事</li> <li>・山田錦など地域の魅力を知ってもらう機会をいろんな形でつくるのが大事</li> <li>・市街化調整区域が多く、ゆかりのない人が移住したくてもできない</li> </ul>                    |
| 中播磨 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・産後・育児から復帰しやすくするため託児所付きのサテライトオフィスを導入</li> <li>・文化や農業、漁業など一次産業を教育に組み込み、兵庫県に愛着を持ってもらう</li> <li>・好きなところで生き、場所に縛られず仕事を選び、生きていきたいように過ごす</li> </ul> |
| 西播磨 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・山際の未整備田や不整形な農地を守る方法を検討する必要がある</li> <li>・昭和感を残しつつ新しいことも取り入れる、バランスのとれた社会になればいい</li> <li>・泣いている子、困っているお年寄りに声かけできる、あたたかい社会になればいい</li> </ul>      |
| 但馬  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内全域が生活圈となり、仕事も住居も余暇も、もっと毎日を流動的に過ごせる</li> <li>・小さな、ローカルな思い出が残るまちになったらいい</li> <li>・AI等で便利になっていく中で、世代間で教え合うようなことができればいい</li> </ul>             |
| 丹波  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波は森が豊かで特産物も豊か。先端技術を生かせれば丹波地域の将来は明るい</li> <li>・集落ごとにスマート農業のリーダーを育成して、地域で回せるようになればよい</li> <li>・丹波はとにかく魅力的。皆が色々な事を考えて、独自に楽しい事を作っている</li> </ul> |
| 淡路  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・島外の人と地元農業者がつながるなど異業種・異分野交流のポテンシャルが高い</li> <li>・リゾートとしても、質の高い暮らしができる地域としても魅力が高まってほしい</li> <li>・ふと島ぐらしをしているということに自覚したときに、何か特別な感覚がある</li> </ul> |

## II 事前課題

---

意見交換会に先立ち、「兵庫県将来構想試案」を素材として、兵庫県の未来を考える以下の事前課題に取り組んでいただきました。

### 1 課題

将来構想試案の39の未来シナリオのうち、(1)最も共感したシナリオ、(2)最も共感できないシナリオ、(3)あなたが考える未来の姿「MY未来シナリオ」を回答

#### 「兵庫県将来構想試案」から未来を考える

兵庫県では、現在、2050年を展望した新しい長期ビジョンの策定を進めています。その一環として、若手有識者による「将来構想研究会」を設置し、社会潮流の調査研究を行ってきました。同研究会では2021年2月、2050年を想定した39の未来シナリオ（望ましい未来の姿）などを内容とする「兵庫県将来構想試案」を取りまとめました。

動画で見ていただいたこの将来構想試案で示された39の未来シナリオについて、自分が最も共感できるシナリオと逆に最も共感できないシナリオを教えてください。あわせてご自身や家族、地域について「こうなってほしい」とあなたが考える未来の姿を教えてください。

#### 【課題】

- (1) 将来構想試案で示された39の未来シナリオのうち、あなたが最も共感した未来シナリオを1つ選び、その理由を記載して下さい。
- (2) 将来構想試案で示された39の未来シナリオのうち、あなたが最も共感できない未来シナリオを1つ選び、その理由を記載して下さい。
- (3) あなた自身やあなたの家族、お住まいの地域などについて、2050年には「こうあってほしい、こうありたい」と考える未来の姿「My未来シナリオ」を記載して下さい。社会潮流や技術動向などは深く考えず、自分の夢や希望を込めて自由に想像して下さい。シナリオはできるだけ具体的に記載して下さい。複数のシナリオを記載いただいても構いません。

## 2 結果概要

将来構想試案の39の未来シナリオに対して、若手職員から寄せられた意見を兵庫県の新しい将来ビジョンの検討に活かすため、テキストマイニングの手法も活用し、膨大な意見の中から浮かび上がってくる新ビジョンの課題と方向性を考察する形で結果を取りまとめました。

(参考) テキストマイニングについて

共感できる・できない理由とMY未来シナリオの内容を分析するため、大量の文字データから有用な情報を取り出す「テキストマイニング」の手法を活用。具体的には、樋口耕一立命館大学教授が開発したソフト「KH Coder」を用いて、各問の回答中の頻出語を抽出し、抽出語間の関係の遠近、強弱を表す「共起ネットワーク図」を作成して抽出語間の関係性を見える化した上で、回答傾向の考察を行った。

### 課題1 最も共感した未来シナリオ ベスト3

#### 第1位 1 自分らしさを追求できる社会 (17票)

- ✓ 兵庫五国の多様性が個性を発揮できるポテンシャルを持っている、自由な時間が新たな発想、産業につながる、お互いの価値を認め合える社会につながるなどの意見がありました。

#### 第2位 15 楽しく子育てできる社会 (14票)

- ✓ 子育て世代に優しくない社会構造を変えるべき、雇用就業環境の整備が必要、一人で子育ての悩み抱え込まずみんなで共有できる空間をつくるべきなどの意見がありました。

#### 第3位 23 自由になる働き方 (9票)

- ✓ 生活拠点の自由な選択にもつながり、ライフステージや価値観に基づいた自分らしい働き方が実現できる、今後、労働力確保のためにも副業が増えていくのではないかと意見がありました。

#### 第3位 25 快適になる移動 (9票)

- ✓ 地方部での移動手段の確保に期待する意見がありました。また、物流の発展が産業の発展につながる、ドローンの活用は災害時の物資の輸送にも役立つとの意見がありました。

### 課題2 最も共感できない未来シナリオ ワースト3

#### 第1位 13 バーチャルが拓く可能性 (18票)

- ✓ 人と人のつながりの希薄化、対人能力の低下、リアルだから感じられる現地の風や匂い、感覚などの体験の減少、犯罪の増加などを懸念する意見がありました。

#### 第2位 11 活躍するシニア (14票)

- ✓ 定年廃止に関する意見が多く、働かない選択肢も尊重すべき、働かないと生きていけない社会になってほしくない、若者や子育て世代の活躍の妨げになるなどの意見がありました。

#### 第3位 24 軽くなる住まい (10票)

- ✓ その地域から離れたくないという人も多いのではないかと、子供のことを考えると地元（ふるさと）は重要であるとの意見がありました。

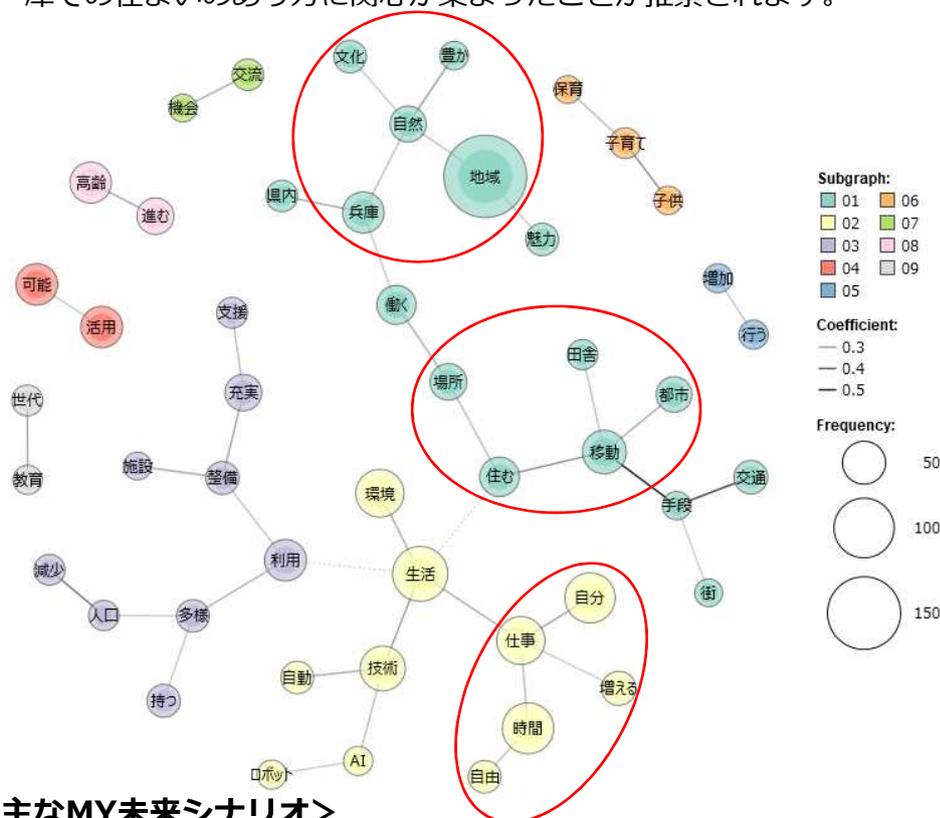
## 頻出語トップ 20

| 順位 | 抽出語 | 出現回数 |
|----|-----|------|
| 1  | 地域  | 194  |
| 2  | 生活  | 84   |
| 3  | 時間  | 72   |
| 4  | 自分  | 69   |
| 5  | 環境  | 63   |
| 6  | 仕事  | 63   |
| 7  | 技術  | 55   |
| 8  | 移動  | 52   |
| 9  | 可能  | 47   |
| 10 | 活用  | 47   |
| 11 | 利用  | 47   |
| 12 | 高齢  | 46   |
| 13 | 兵庫  | 46   |
| 14 | 住む  | 42   |
| 15 | 働く  | 41   |
| 16 | 農業  | 40   |
| 17 | 充実  | 36   |
| 18 | 場所  | 36   |
| 19 | 進む  | 36   |
| 20 | 自然  | 35   |

## 課題3 MY未来シナリオ

テキストマイニングによる頻出語と単語間の関係性から読み取れる、若手職員のMY未来シナリオの特徴は、以下のとおりです。

- ✓ 「地域」「兵庫」と「自然」「豊か」「文化」が関連しており、兵庫の強みである豊かな自然や文化に関するシナリオが描かれています。
- ✓ 「生活」を中心として、「仕事」「自分」「時間」「増える」「自由」や、「AI」「ロボット」「技術」などが関連しており、技術の発展がもたらす、働き方の多様化をはじめとする生活の変化に関するシナリオが描かれています。
- ✓ 「移動」を中心として、「都市」「田舎」や「住む」「場所」などが関連しており、コロナ禍によるテレワークの広がりが、都市と田舎両方持つ兵庫での住まいのあり方に関心が集まったことが推察されます。

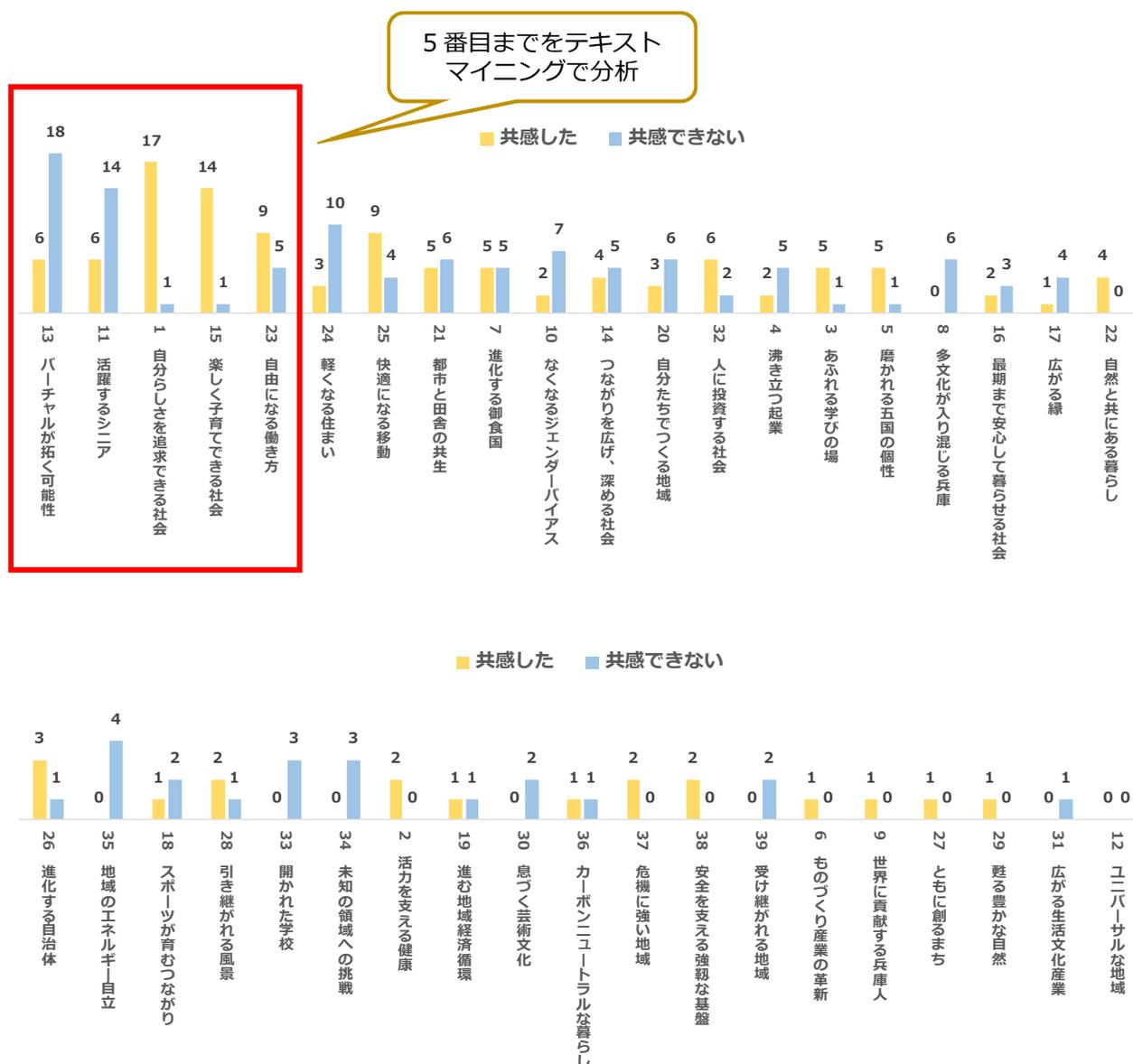


### <主なMY未来シナリオ>

|                              |   |
|------------------------------|---|
| <b>1 個性の追求</b><br>(40シナリオ)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生き方ができる兵庫</li> <li>・いつからでもリスタートできる社会</li> <li>・進化と伝統の共存共栄</li> <li>・儲かる農業の確立 など</li> </ul>           |
| <b>2 開放性の徹底</b><br>(7シナリオ)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性が認められる社会</li> <li>・男女関係なく、すべての人が働きやすい環境</li> <li>・「障害(者)」という言葉・概念が消失した社会 など</li> </ul>               |
| <b>3 つながりの再生</b><br>(25シナリオ) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して子育てできる社会</li> <li>・自分の意思で選ぶ終末期</li> <li>・すべての人に役割、生きがいがある世の中</li> <li>・県民が創造する地域 など</li> </ul>      |
| <b>4 集中から分散へ</b><br>(44シナリオ) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに暮らしても変わらない生活水準</li> <li>・自分のペースで暮らす、働く</li> <li>・県内全域が生活圏</li> <li>・全県民の積極的なICT活用 など</li> </ul>      |
| <b>5 美の創生</b><br>(7シナリオ)     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロハスな街づくり</li> <li>・甦る山林</li> <li>・自然を活かす</li> <li>・世界で人気の旅行先兵庫 など</li> </ul>                            |
| <b>6 次代への責任</b><br>(17シナリオ)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い教育</li> <li>・資源の地産地消</li> <li>・気候変動を克服する脱炭素社会</li> <li>・個人の災害対応力が育つ</li> <li>・愛着を育てる生活 など</li> </ul> |

### 3 注目シナリオとその理由

- ・関心が高い順に見てもらえるよう共感した・共感できないを合わせて多い順に掲載しました。
- ・1番、2番の「11活躍するシニア」「13バーチャルが拓く可能性」は20を超える票を得ました。
- ・共感したの上位1位、2位の「1自分らしさを追求できる社会」「15楽しく子育てできる社会」は共感できないは1票のみで圧倒的な支持を得ました。
- ・「IV集中から分散へ」の「23自由になる働き方」「24軽くなる住まい」など、流動化に関するシナリオは、期待もある一方で、劣悪な就業形態が形成されるのではないかと、地域住民とのつながりが薄くなるのではないかなど不安視する声も多く聞かれました。
- ・選択の理由には、シナリオの実現に向けた取組が不十分であることや、実現に向けて留意すべきことなど多くの示唆が得られたため、新ビジョンの検討に活かしていきます。



関心の高い注目シナリオ5番目までは、テキストマイニングを使って、頻出語と語句ごとの関連性などを詳細に記述しています。(共感した・共感できないでは上位3番目までを網掛け)

| シナリオ名             | 注目シナリオ | 共感した | 共感できない |
|-------------------|--------|------|--------|
| 13 バーチャルが拓く可能性    | 24     | 6    | 18     |
| 11 活躍するシニア        | 20     | 6    | 14     |
| 1 自分らしさを追求できる社会   | 18     | 17   | 1      |
| 15 楽しく子育てできる社会    | 15     | 14   | 1      |
| 23 自由になる働き方       | 14     | 9    | 5      |
| 24 軽くなる住まい        | 13     | 3    | 10     |
| 25 快適になる移動        | 13     | 9    | 4      |
| 21 都市と田舎の共生       | 11     | 5    | 6      |
| 7 進化する御食国         | 10     | 5    | 5      |
| 10 なくなるジェンダーバイアス  | 9      | 2    | 7      |
| 14 つながりを広げ、深める社会  | 9      | 4    | 5      |
| 20 自分たちでつくる地域     | 9      | 3    | 6      |
| 32 人に投資する社会       | 8      | 6    | 2      |
| 4 沸き立つ起業          | 7      | 2    | 5      |
| 3 あふれる学びの場        | 6      | 5    | 1      |
| 5 磨かれる五国の個性       | 6      | 5    | 1      |
| 8 多文化が入り混じる兵庫     | 6      | 0    | 6      |
| 16 最期まで安心して暮らせる社会 | 5      | 2    | 3      |
| 17 広がる縁           | 5      | 1    | 4      |
| 22 自然と共にある暮らし     | 4      | 4    | 0      |
| 26 進化する自治体        | 4      | 3    | 1      |
| 35 地域のエネルギー自立     | 4      | 0    | 4      |
| 18 スポーツが育むつながり    | 3      | 1    | 2      |
| 28 引き継がれる風景       | 3      | 2    | 1      |
| 33 開かれた学校         | 3      | 0    | 3      |
| 34 未知の領域への挑戦      | 3      | 0    | 3      |
| 2 活力を支える健康        | 2      | 2    | 0      |
| 19 進む地域経済循環       | 2      | 1    | 1      |
| 30 息づく芸術文化        | 2      | 0    | 2      |
| 36 カーボンニュートラルな暮らし | 2      | 1    | 1      |
| 37 危機に強い地域        | 2      | 2    | 0      |
| 38 安全を支える強靱な基盤    | 2      | 2    | 0      |
| 39 受け継がれる地域       | 2      | 0    | 2      |
| 6 ものづくり産業の革新      | 1      | 1    | 0      |
| 9 世界に貢献する兵庫人      | 1      | 1    | 0      |
| 27 とともに創るまち       | 1      | 1    | 0      |
| 29 甦る豊かな自然        | 1      | 1    | 0      |
| 31 広がる生活文化産業      | 1      | 0    | 1      |
| 12 ユニバーサルな地域      | 0      | 0    | 0      |



## <理由> ○共感した ●共感できない

- 2021年の時点で類似の技術、サービスがあり、よほどのことがない限り実現する
- VRは、既に身近な存在になっている
- VR技術は、買い物や観光、学習、ビジネス、医療等の様々な分野で重要な役割を担う
- 今まで無駄を省いてきた技術でよりよい人とのコミュニケーションを築くことができるようになればいい
- VRによるハンディを持った人々の視座や価値観を体験・共有することで、共感や思いやりが広がる社会などを拓く可能性の一つになる
- 通勤者の減少や旅行者の減少に対して、バーチャル空間維持や、サービスの有償化による利益を出せないか
- VR技術が本来の目的を忘れ、「効率化」「結果主義」の手段に陥っている
- 学習や芸術分野においては、実際の体験が重要になる
- どれだけ技術が進歩しても、現地の風や、匂い、感覚は伝わってこない
- より一般的になるのはスマートグラスのような道具を用いたARやMRである
- 仮想空間と現実空間の境界が曖昧になればなるほど、人間の知覚等への悪影響もあるのでは
- 教育の面では、仮想空間の充実による対人能力の低下を危惧する
- 何らかのハンディがある状況を仮想空間で経験することはごまかしのようを感じる
- 視覚的な情報が圧倒的に多く、その世界観に入り込みやすいため、仮想空間と現実空間との乖離が生じるリスクが生じる
- 現実で人と対面しふれあう機会が減少し、人と人とのつながりが薄くなってしまふ
- コミュニティ内での関係の希薄化や実際に五感で感じないことによる感動の薄れ等を懸念
- 観光や買物などは現実世界で行い、目的以外のこと（予期せぬ発見や出会い等）が発生する方が楽しい
- コミュニティが完全にバーチャル化していく、ということには少し寂しさを覚える
- 学校では、休み時間に友達と話すこと、喧嘩すること、一緒に同じ空間で過ごし、授業を受けることに意味がある
- 観光も往復の道中や現地に行って実物を見たという体験が大事である
- 仮想世界で体験した出来事を、法や倫理を無視して現実世界に反映させてしまう危険がある
- 全ての者が繋がるネットからはじき出された者は、絶望的な孤独感を抱える事になる
- 実際にリアルな活動に費やす時間が減る
- 仮想空間と現実空間が入り交じり、区別がなくなり、犯罪が増加する可能性がある



## <理由> ○共感した ●共感できない

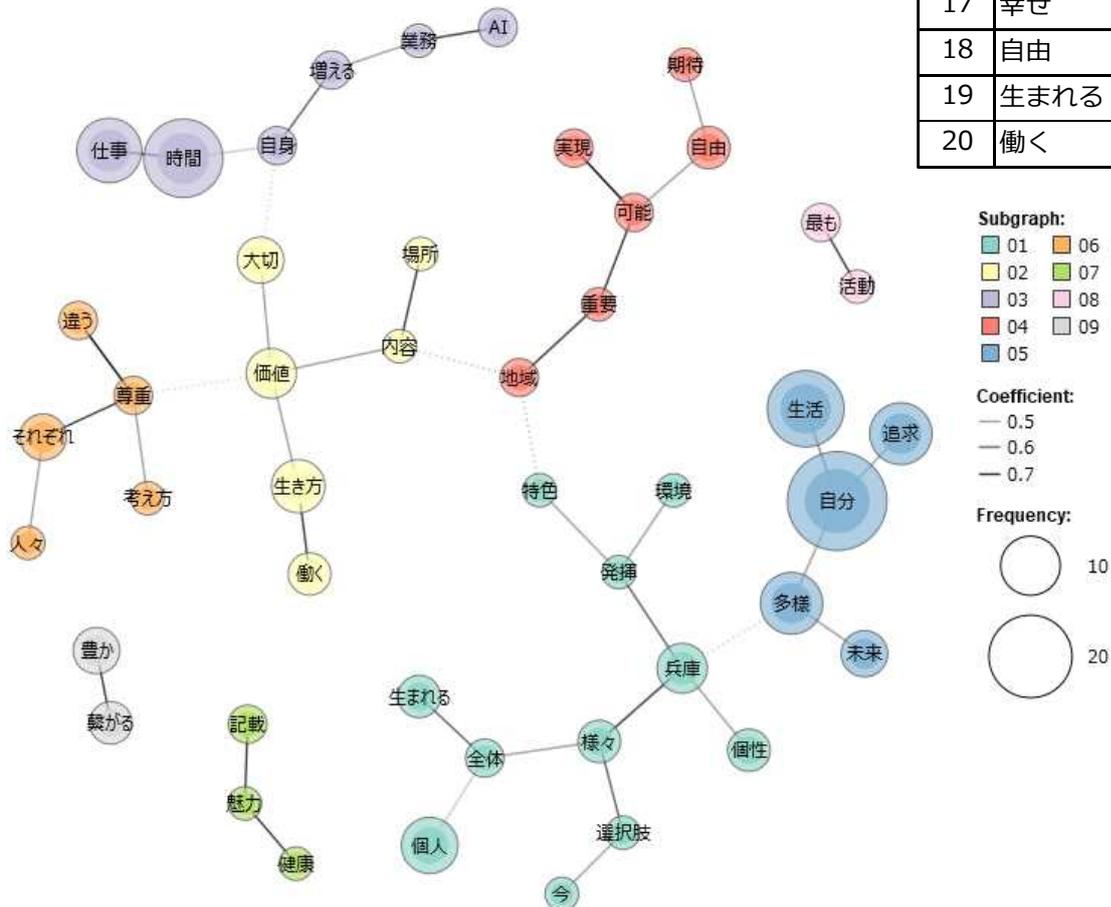
- 専門性の高い職において、シニア世代が企業において長年の知識や経験を生かせる環境を整えることは、経済成長を進める上で欠かせない
  - 生涯現役で活躍するシニアが増えれば、経済的に日本全体が活気づく
  - 高齢者のサポートが充実し、若い人と変わらないぐらいになればできることはもっと増える
  - 高齢者にしか分からない解決したい用事（ニーズ）を見つけることができる
  - シニア世代が経験してきた外遊びや自然観察、祭り等の分野で子育て世代とつながることで、活力が生まれる
  - 他者と交流し、地域の中で活躍できる場所や機会を提供することが、人生にポジティブな影響を与える
  - 一定の年齢を迎えることで定年退職し、それから先の選択肢の中で、活躍したい人がシニアとして現役で活躍すればいい
  - 働かない選択肢も尊重し、多様な選択が認められる社会であってほしい
  - シニアには現役として働くのではなく、一線を引いてもらい若者の指導や補助を中心とした役割を担ってほしい
  - 定年性の廃止により、若者や子育て世代のポストが埋まり、昇進の妨げとなる。経済的に安心して子育てができる体制のためにも定年制は維持すべき
  - まず若者の労働環境の改善や年功序列の廃止
- といった若者が働きやすい環境作りを優先していくべき
- 第一線を退いた後の人生を自分で決めることができる未来になればよい
  - 将来のある若い世代の教育に力をいれることの方が未来の地域活性化につながっていく
  - 助言を求める若者に対し、経験豊富なシニアアドバイザーをマッチングできるサービスを提供すれば、若者の育成、シニアのやりがい創出につながる
  - 病気や寿命で働けなくなるハイリスクがあるのに、資金を融資する金融機関があるのか
  - 高齢になっても働かないと生きていけないような社会にはなってほしくない
  - シニアとなる前段階に経済的な余裕を持つことができるような社会の仕組みの整備が必要
  - 定年制をなくすことにより生涯現役であることを強いているようにも感じる
  - シニアに頼らなくても企業がまわるような仕組み（従業員への待遇、AIの活用等）が整っている未来であるべき
  - 同じ組織に長年定着させないこと、権限の分散や、若者とシニアとのフラットな関係の構築など、工夫した働き方が必要
  - スピードを求められる仕事や長時間勤務は不向きであり、企業によって調整が難航する

## 1 自分らしさを追求できる社会 18票 (○共感した 17票 (第1位)、●共感できない 1票)

### 兵庫五国の多様性には一人ひとりが個性を発揮できるポテンシャルがある

- ・「1自分らしさを追求できる社会」は、ほとんど共感できない人はおらず、多くの共感を集め、18票（共感17、非共感1）を得て第3位でした。
- ・頻出語は多い順に「自分」「時間」「生活」「仕事」「多様」「追求」「個人」「生き方」「価値」「兵庫」等です。
- ・頻出語間の関係を見ると、「自分」「生活」「多様」「追求」の関連が強く、また「仕事」「時間」の関連も強いです。さらに「兵庫」「個性」「発揮」の関連も強くなっています。
- ・共感した理由として、多様性のある兵庫五国は個性を発揮できるポテンシャルを持っている、自由な時間が新たな発想、産業につながる、お互いの価値を認め合える社会につながるなどの意見がありました。
- ・共感できない理由として、何もしなくても良い選択肢もあってもいいのではないかとの意見がありました。
- ・自分らしさを追求できる兵庫であるためにも五国の多様性を活かしていく必要があります。一方、「らしさ」の追求を押しつけないという視点も忘れてはいけません。

| 順位 | 抽出語  | 出現回数 |
|----|------|------|
| 1  | 自分   | 29   |
| 2  | 時間   | 18   |
| 3  | 生活   | 17   |
| 4  | 仕事   | 12   |
| 5  | 多様   | 11   |
| 6  | 追求   | 11   |
| 7  | 個人   | 9    |
| 8  | 生き方  | 8    |
| 9  | 価値   | 7    |
| 10 | 兵庫   | 7    |
| 11 | それぞれ | 6    |
| 12 | 大切   | 6    |
| 13 | 豊か   | 6    |
| 14 | 未来   | 6    |
| 15 | 繋がる  | 5    |
| 16 | 個性   | 5    |
| 17 | 幸せ   | 5    |
| 18 | 自由   | 5    |
| 19 | 生まれる | 5    |
| 20 | 働く   | 5    |



## <理由> ○共感した ●共感できない

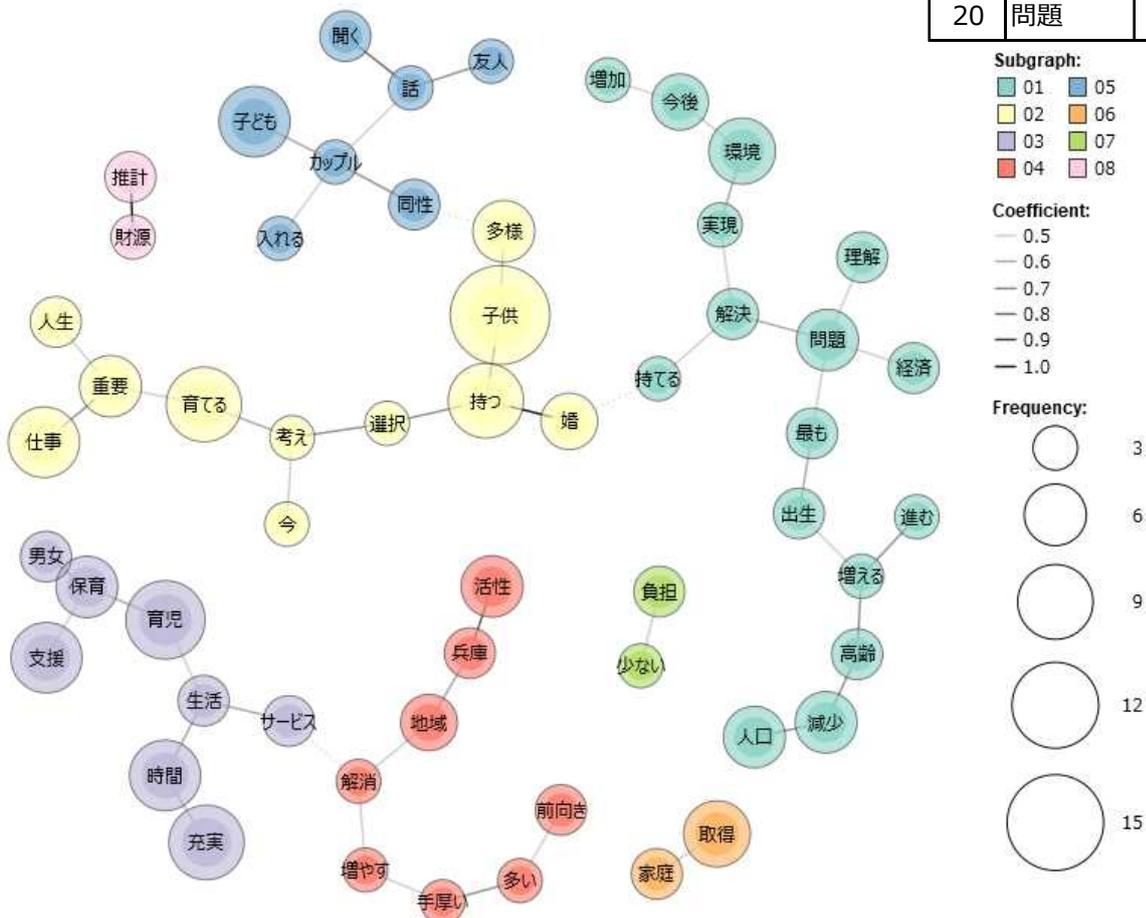
- 多様な生き方を可能にできれば、より魅力的な兵庫県になる
- 自分なりに考え、自発的に行動することが、自分自身の存在意義や生きがいに繋がる
- 個人が自分の望んだ生き方、働き方ができる未来は根本的な考え方
- 異なる特色を持つ兵庫五国は、個性を発揮できる様々な環境やポテンシャルを有している
- 地域に特色がある兵庫は、やりたいことや、居場所を見つけることができる
- 様々な条件の土地や多種多様の特産品が生まれうる環境にあり、それぞれの「やりたい」を現実にするための基盤が整いやすい
- 自分らしい生き方を追求できることは、豊かで、ゆとりのある穏やかな心で生活でき、周りの人々の生き方も尊重できることに繋がる
- 個人レベルでできることはますます増え、今までになかった生き方・働き方も生まれている
- 余暇時間の増大で、人は豊かになり新たな発想や産業が生まれ、社会全体の豊かさにつながる
- 県民の生き方が多様化していき、お互いが人の幸せの形を尊重できるような社会になるべき
- 一人ひとりが理想の生活をするためには、お互いの価値観を認めることが必要
- こうあるべきという考え方がなくなり、互いに尊重できる社会になると良い
- 仕事に多くの時間を奪われることなく、やりたいことをやる時間が作れることが幸せ
- 自分らしさを豊かにすることが意欲的な活動や健康、日常生活の活性化にも繋がる
- 時間ができれば、休息や、ストレス解消など心身の健康につながり、仕事効率もさらに向上
- 今後はより個人の考えや活動が優先され、組織に属しながらも個人での活動や雇用内容、勤務形態を選ぶようになる
- 自分自身と向き合う時間が取りやすくなる
- 自分らしさと個性が輝き、多様性に富んだ社会は一見理想的ではあるが、何もしない選択もあってよい

## 15 楽しく子育てできる社会 15票(○共感した 14票(第2位)、●共感できない 1票)

### 子育て世代に優しくない社会の構造を変えるべき

- ・「15楽しく子育てできる社会」は、ほとんど共感できない人はおらず、多くの共感を集め、15票（共感14、非共感1）を得て第4位でした。
- ・選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「子育て」「子供」「育児」「育てる」「持つ」「充実」「仕事」「子ども」「支援」「時間」等です。
- ・頻出語間の関係を見ると、「子供」「多様」「持つ」「選択」の関連が強く、また「育児」「生活」「時間」「充実」の関連も強いです。さらに「子ども」「カップル」「同性」の関連も強くなっています。
- ・共感した理由として、就業環境、人々の意識も含め、子供を持つことを選択できる社会の構築が必要であるとの意見がありました。
- ・共感できない理由として、誰かには子育ての負担がいくので、楽しく子育てできるという表現に嫌悪感を示す人もいるとの意見がありました。
- ・安心して子育てできる社会になっておらず、子供を産むことを選択できなくなっている状況を変えていく必要があります。

| 順位 | 抽出語 | 出現回数 |
|----|-----|------|
| 1  | 子育て | 21   |
| 2  | 子供  | 16   |
| 3  | 育児  | 10   |
| 4  | 育てる | 9    |
| 5  | 持つ  | 9    |
| 6  | 充実  | 9    |
| 7  | 仕事  | 8    |
| 8  | 子ども | 8    |
| 9  | 支援  | 8    |
| 10 | 時間  | 8    |
| 11 | 環境  | 7    |
| 12 | 取得  | 7    |
| 13 | 少子化 | 7    |
| 14 | 活性  | 6    |
| 15 | 減少  | 6    |
| 16 | 重要  | 6    |
| 17 | 人口  | 6    |
| 18 | 多様  | 6    |
| 19 | 保育  | 6    |
| 20 | 問題  | 6    |



## <理由> ○共感した ●共感できない

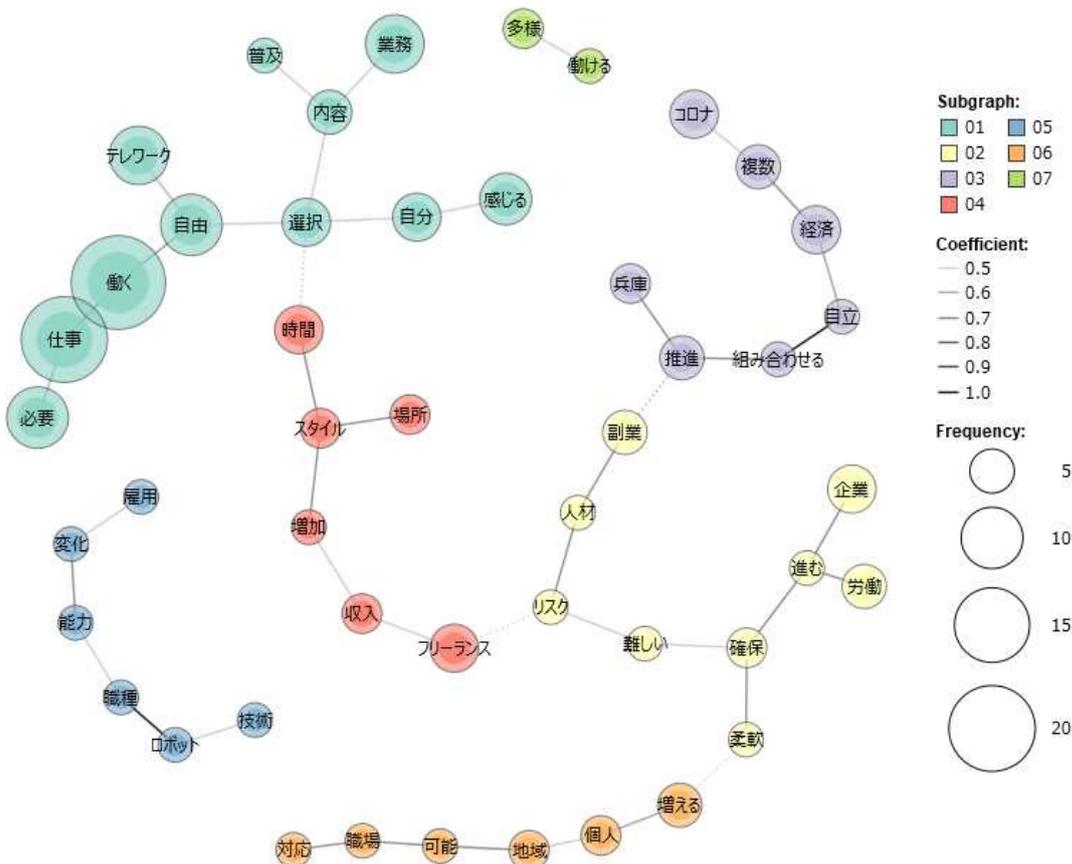
- 子供を持ちたい人もそうでない人も自由に選択でき、その選択が非難されることがなく受け入れられる社会であれば子育てもしやすくなる
- 「満遍なく」より、「絶対これは」という舵の取り方が必要で、「絶対」なのはやはり次世代を育てる環境が充実していること
- 子供を育てたいというモチベーションのある人が、子供を持ち育てられる社会が最も理想的
- 近年、ワークライフバランスに対する世の中の意識が大きく変わってきており、“仕事と家庭の調和”への道筋が見え始めた
- 雇用就業環境整備により働き続けられれば、地方の人手不足問題を解決することにも繋がる
- 一人で抱え込まずみんなで悩みを共有できる空間をつくることで虐待や育児放棄を防ぎ、前向きな育児につながる
- 少子化が進む中、支援体制を整えることが大切
- どこに住むか決めるときに、子育て支援がどれくらいあるのかを見て決める人が多い
- 出生率減少の大きな要因となっている「子育ての不安」を少なくすることが大切
- 子育て世代に優しくない社会構造が少子化の原因のひとつ
- 子育ては想像以上に経済的な負担がかかり、共働きでないと生活が厳しい
- 共に苦労し、共に考え、子育てするという経験が今後の人生で必ず重要になる
- 子どもを育てることを諦めていた人たちが子育てできる仕組みを整えることは、出生数の増加や多様性を認め合うことへも寄与する
- 婚外子や養子縁組など、様々な形で子供を持つ環境をつくるため、これまでの偏見や差別をなくす活動を進める必要がある
- 楽しい子育てができるのが理想だが、少なからず誰かに負担がいくわけなので、この表現には嫌悪感を抱く人もいるかもしれない

## 23 自由になる働き方 14票 (○共感した 9票 (第3位)、●共感できない 5票)

### ライフステージや価値観に基づいた自分らしい働き方をしたい

- ・「23自由になる働き方」は14票(共感9、非共感5)得て第5位でした。
- ・頻出語は多い順に「働く」「仕事」「自由」「必要」「テレワーク」「業務」「感じる」「コロナ」「フリーランス」「企業」等です。
- ・頻出語間の関係を見ると、「働く」「仕事」「自由」「テレワーク」の関連が強く、また「時間」「場所」「スタイル」の関連も強いです。さらに「コロナ」「複数」「組み合わせる」「自立」の関連も強くなっています。
- ・共感した理由として、コロナ禍により働き方の変化の必要性を実感している、また、今後、労働力確保のためにも副業が増えていくのではないかと意見がありました。
- ・共感できない理由として、フリーランスの増加は、劣悪な雇用につながるのではないかと、地域活動に携わる人が減るのではないかと意見がありました。
- ・コロナ禍で、働き方の変化を身近に感じる中、自分らしい働き方ができるようになるとの期待がある一方で、劣悪な就業形態が形成されるのではないかと、満足な生活ができる収入が得られないのではないかと不安もあります。自分らしく働くことができ、挑戦して失敗しても何度もやり直せる環境を整える必要があります

| 順位 | 抽出語    | 出現回数 |
|----|--------|------|
| 1  | 働く     | 24   |
| 2  | 仕事     | 20   |
| 3  | 自由     | 10   |
| 4  | 必要     | 10   |
| 5  | テレワーク  | 9    |
| 6  | 業務     | 9    |
| 7  | 感じる    | 7    |
| 8  | コロナ    | 6    |
| 9  | フリーランス | 6    |
| 10 | 企業     | 6    |
| 11 | 経済     | 6    |
| 12 | 時間     | 6    |
| 13 | 自分     | 6    |
| 14 | 選択     | 6    |
| 15 | 推進     | 5    |
| 16 | 増える    | 5    |
| 17 | 内容     | 5    |
| 18 | 副業     | 5    |
| 19 | 複数     | 5    |
| 20 | 労働     | 5    |



## <理由> ○共感した ●共感できない

---

- 2050年には人それぞれに複数の仕事を組み合わせさせて経済的に自立している姿が想像できる
- コロナ禍で急速に近づいていると感じられる
- 新型コロナウイルスの影響により、偶発的だが働き方がビジョンの内容に近づいた
- 超少子高齢化が進み、企業が労働力を確保するためには、副業としての社員獲得が必要になる
- 企業も労働力確保のため、兼業を前提とした雇用契約を考えるようになる
- 自分でオンとオフをコントロールできるような能力が必要。学校教育の段階から、登校してチャイムが鳴ったら授業、というスタイル自体が変化していくべき
- 働き手が仕事を選べたり、仕事内容からお願いする人を選べる社会になって欲しい
- 生活拠点の自由な選択にもつながり、ライフステージや価値観に基づいた自分らしい働き方や暮らしを実現できる
- 書類の電子化やAIによる質問対応などが普及してどこの職場でも柔軟な働き方が選択できるようになってほしい
- フリーランスが増え、仕事の受注競争や価格競争が激化すると、賃金の低下と業務の増大により、劣悪な就業形態が形成されるのでは
- ひとつの業務のプロフェッショナルがいなくなり、生産性の低下が懸念
- 労働者個人が好きな所に住み、仕事ができるので地域活動に携わる人が減少するのでは
- コミュニケーション能力が必要な職種では、対人での臨機応変な対応が必要とされるため、働き方にあまり変化は見られない
- 個人間や一地域で完結する仕事は経済規模が小さく、満足な生活ができる収入を得られない

## 24 軽くなる住まい 13票（○共感した 3票、●共感できない 10票（第3位））

複数拠点での生活は楽しそう、新たな生きがいの創出にもつながるとの意見がありました。一方、その地域から離れたくないという人も多いのではないかと、子供のことを考えると地元（ふるさと）は重要であるとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 拠点が複数できることで、新たな生きがいを創り出すきっかけにもなる
- 社会資本整備の見直しを行い、住居エリアと非住居エリアを区別し、インフラメンテナンスにも活かしたい
- ひとつの家に縛られるよりも、拠点を複数箇所持って住み分けたり、ライフステージの変化に合わせて住み替える住みの方が楽しそう
- 「モノはなるべく少なく、シンプルに暮らす」という個人の価値観を限定している
- 田舎で近所づきあいが深く助け合って生活し、生涯をその地域で過ごす人が多い。30年後は、更に高齢化し、空き家も増える
- 住み慣れた地域から離れたくなく、学校の転校の必要もあるので、積極的な移動は考えにくい
- 持ち家を持たず、居住地が流動化すると、これまで以上に地域住民とのつながりが薄れる
- 子を養育する上で、成長過程での心の拠り所として地元（ふるさと）の重要性を認識している
- 子供が安心して帰れる家が欲しい。実家が流動的ではなく、いつも同じ場所にあるため安心して帰ることができる
- 地域に根付いた生活を望む方がいる以上は、一部の方の道楽にしかならない
- 長年住民が根ざしていることによって形成される地域独自の文化や魅力といったものを伸ばしていくことの方が重視されるべき
- より便利なところへ人口が流出し、今以上に地域格差が大きくなるのではないかと
- 軽くなる住まいのイメージができなかった

## 25 快適になる移動 13票（○共感した 9票（第3位）、●共感できない 4票）

地方部での移動手段の確保に期待する意見がありました。また、物流の発展が産業の発展につながる、ドローンの活用は災害時の物資の輸送にも役立つとの意見がありました。一方、インフラのコスト面の課題、車社会からの脱却は難しいとの意見もありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- デジタル化が大いに発展したとしても、人やモノの流れは生活には欠かせない
- より旅行や出張に行きやすくなり、観光に利用できる時間の増加や仕事にかかる時間の短縮
- 移動そのものが負担にならないため、現地に向き、より充実度の高い経験を積める

- 交通ネットワークの整備によって、地域間の移動が便利となりよりよい兵庫県となる
- 高齢者の移動の不便解消や、田舎と都市の移動時間の短縮は、田舎がこれからも発展していくためには最も欠かせない
- 移動手段を確保することにより、従来と比較して外出の機会が増加すると考えられるため、健康づくりにもつながる
- 配送ロボットが一般化すれば、都市部に比べて買い物ที่ไม่自由な地方や山間部でも快適に生活ができる
- 物流の発展は、国内消費の増加、海外への輸出など産業の発展にもつながる
- ドローンなどの活用は、災害時に、人が立ち入れない危険な地域に取り残された住人にも必要な物資を届けられる
- インフラ整備やその維持に多額のコストがかかる。また、渋滞緩和までは難しい
- 人口減少している中で、道路整備を進めていくことに疑問。どれだけの人が利用するのか。整備、管理コストも大きくなる
- 地方では沿道に店舗が集約しており、車社会を前提とした街づくりがなされているため、多様な移動手段を整備していくのは難しい
- あえて移動が不便なところに価値を見いだすという視点もある

## 21 都市と田舎の共生 11票（○共感した 5票、●共感できない 6票）

地域間格差の是正や担い手不足の改善など、様々な社会課題の解決に資するとの意見がありました。一方で、ローカル志向は、程よい田舎の需要が高まっているだけではないか、都市部で暮らす人ではなく、農村部で暮らす人の暮らしの充実を図るべきとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 人口の偏在化により、都市と田舎のそれぞれで過密、過疎化が進行して、暮らしの質が低下
- 地域間の経済格差、待機児童、公共インフラ整備のための財源確保など多くの社会問題に対処できる
- 地方の企業や農業・漁業などの一次産業の担い手不足の改善にも繋がる
- 田舎で自然に囲まれた、スローライフと言われるような生活への「憧れ」だけでなく、密でない場所での「安心感」が多自然地域の魅力に
- 都市に集中している機能を田舎に分散できれば、地元で暮らしたいと思う人が増える
- 地方の人口減少によって、田舎は集落を維持できなくなるため、より都市に集まって生活するようになる
- 自然の豊かさがありつつも生活にも不便を感じない、「程よい田舎」の需要が高まっている
- 都市部で暮らす人の暮らしの充実のために農村部に行くことだけでなく、農村部で暮らす人の暮らしの充実も図られる視点が必要
- 分散させることに加えて、地域が多様な個性を発揮し、協調した上で、ともに発展できるかどうかが重要なポイント
- リモートワークが広がっても、そこまで田舎への分散が進むとは思わない
- 公共サービスを充実させ、地方独自の文化の魅力を発信することにより、若者らを積極的に誘致していく必要がある

## 7 進化する御食国 10票 (○共感した 5票、●共感できない 5票)

スマート農業や環境創造型農業、地産地消の推進のほか、食品ロス問題への対応などの意見がありました。一方で、スマート農業にも限界がある、デジタル化により、個人の農家が淘汰されていく、不整形な農地をどう守るかとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 農業を核とした魅力ある地域の発展のため、ICTを用いた遊休農地・施設の活用、自動草刈り機や完全自動・無人トラクターの活用が必要
- 命の源である食を育む農業は、人類にとってなくてはならないものであり、食が満たされてこそ、人は豊かな生活を歩める
- 地産地消、内需拡大、国産・県産食品等の魅力アップにもつながる
- 消費者の環境創造型農業への認知度が向上し、付加価値もつけば環境・農家にとっても良い
- 食品ロスの問題は深刻化している。自ら食料を調達できる環境を提供することで、食に対する意識は向上する
- 若手の生産者がスマート農業や大型機械を用いて管理しているが、限界であるとの声もある
- 担い手が集約しづらい、シェア・レンタルも広がりづらい山際の未整備田や不整形な農地をどのように守るかも検討すべき
- スマート農業は、誰でも容易に扱えるとは思えない
- 既に全国的にも認められている製品のブランドイメージを維持する取組が必要
- 生産管理のデジタル化により、人件費が削減され、農作物が安く生産できるようになり、個人の農家は今以上に淘汰されていく

## 10 なくなるジェンダーバイアス 9票 (○共感した 2票、●共感できない 7票)

夫婦で分け隔てなく育てる考え方が定着して欲しい、どんな人も自分らしくあることができ、性別に関わらず能力を発揮できる社会をめざすべきとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- “夫婦で分け隔てなく育てる”考え方が定着して欲しい
- 外に稼ぎに出る役割、家庭内のことをする役割を自由に分担することができれば、男性も女性も自己実現が出来る
- ジェンダーバイアスがなくなるのはあたり前で、そこを起点として目指すシナリオが描かれてほしかった。(「ジェンダーフリーな社会」等)
- 女性の管理職比率の向上がジェンダーギャップを解消するかは疑問
- 暮らしが多様化する中で、一定の改善はされると思うが、「無くなる」という所までは難しい
- 自身にそのような経験・環境に今まで遭遇したことがないので実感がわからない
- 「女性の障壁をなくす社会を目指す」「どんな人も自分らしくあることができ、性別に関わらず能力を発揮できる社会」「それぞれが役割を発揮できる社会」のような方向性を示すべき

- 人の適性をみて、社会で活躍したいと思っている人が活躍できる社会であればいい

- 「ジェンダーバイアスがなくなる」というのは、キャリアや私生活において自分の性別が障壁となる場面がなくなることだ

## 14 つながりを広げ、深める家族 9票（○共感した 4票、●共感できない 5票）

人は一人では生きていけず、孤立を防ぐ必要がある、有事の際にもつながりが必要との意見がある一方で、つながりが全て理想なわけではない、離れて暮らす家族は減らないとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 人は一人では生きられないことから、常に孤立を防ぐことが必要
- 現代社会で孤独になりやすい、介護世帯、片親の子育て世代、単身者が、「開かれた家族」により、地域で一体となり手助けし合うことが可能
- 若年世代はシニア世代に育児サポートをしてもらえ、シニア世代は若年層との交流で活力アップにつながる
- 災害時など有事の際のためにも、普段から近隣の人々との関係を構築できていることが必要
- 子供と高齢者が近い環境で育児・介護されて
- おり、相互に助け合うような空間の形成など、複数の課題を一気に解決する形が良い
- 地域でのつながりが犯罪に巻き込まれる等のマイナスの影響を与えてしまうのではないか
- 現状では一層地域との繋がりがなくなり、孤独を感じる人も増える
- 全ての地域や家族に合うわけではなく、つながりが全ての理想として書かれることに違和感
- 地元以外の地域に魅力を感じれば出て行くので、離れて暮らす家族は減らない

## 20 自分たちでつくる地域 9票（○共感した 3票、●共感できない 6票）

自分たちでつくる地域は、より愛される地域となるとの意見がありました。また、ボランティア的発想から経済的発想への転換、アドプト制度の活用などの提案もありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 地域のことを一番理解し、その地域への思いが強い、そこに住む人たちが自分たちでつくる街や地域はオリジナリティがあり、より愛される街や地域が出来る
- 財政面等で公助には限界があり、身近な地域の課題に住民が主体的に取り組むのは有効
- 耕作放棄地の有効活用や簡単な道路整備などができる地域が増えてほしい
- ボランティア的発想から経済的発想へ。自治会費や寄付金により資金を集め、その資金を地域の維持に必要な活動を行った人の労務費に充ててはどうか
- 行政が持つ有益なデータを公開することで、企業やNPO法人、個人事業主、市民の社会貢献活

- 動、更には新たなマーケットの構築につながれば、地域の好循環が生まれる
- 超高齢化、少子化が進んでいる中でなかなか進めていくことが難しい
- 主体的に地域自治に取り組む人の意見のみが反映された地域自治になる恐れがある

- アドプト制度を活用した、身近な施設運営への参加等により、地域づくりへの参加機運を高めるための仕組みづくりにも注力するべき
- 人口減少・少子高齢化が進行する中、自分たちでつくる地域をつくる担い手の確保が困難

## 32 人に投資する社会 8票 (○共感した 6票、●共感できない 2票)

地域社会は世代交代ができていないので、将来の担い手を育成すべき、正解のない問いに向かいあい、課題を発見し、解決できる人材を育成すべきとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 地域社会は世代交代ができていない。将来の担い手を育成する仕組みを再構築できない地域は衰退するしかないが、今までできていないからこそ新たなチャンスがある
- 社会や地域をよりよくするための人材育成をし、それが当たり前になれば、社会を変えようとする事への価値が広く一般的に認められる風土になる
- 誰も持っている「強み」を伸ばすことで、自己肯定感を抱き自立し、持続可能な社会が実現
- 多様な価値観を受入れるためにも、幅広い知識を学び、体験を積むことが大事
- 現代は、現状の課題を自ら発見し、従来の解決策を応用し、課題解決を図るための術を見つけて出す力が求められる時代に
- 日本国としてどのような国際貢献ができるか、そのためにどういった取組を行うかを考える必要があり、国家ビジョンとして描くべき
- 正解のない問いに向かい、その課題を克服できる人材によって、社会はブラッシュアップされ、その結果として社会の発展へと繋がる
- 教育に力を入れることが知識経済化、デジタル経済化に対応するためであるということが理解できなかった

## 4 沸き立つ起業 7票 (○共感した 2票、●共感できない 5票)

起業の促進により、理想的な働き方が選択できるようになるとの意見がある一方で、安定的な収入につなげることは難しいことや、多くの支援が必要なこと、起業する場として兵庫が選ばれる強みが必要との意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 起業の促進により、各個人にとって理想的な働き方が選択できるようになるとともに、ビジネス感覚が研鑽され、スキルアップにつながる
- コミュニティビジネスは兵庫県の多様性をビジネスに活かす可能性を有しており、実現すれば県の活力増進を期待できる

- 起業する事業者に対して、金銭面や環境面での多くの支援や補助が必要となる
- 起業には多くの労力・時間が費やされることに加え、安定的な収入に繋げることは容易でない
- なぜ起業するのかや考えについては他の未来シナリオにも十分反映されている
- 起業場所の選択肢が増えた中、起業者が兵庫県を選んでもらえる「理由」「強み」がほしい
- フリーランスにも沢山の失敗例があり、産休・育休といった課題も残る中、具体性のない起業支援を掲げるべきではない

### 3 あふれる学びの場 6票（○共感した 5票、●共感できない 1票）

子供の学習の場の選択肢を増やしてあげたいという声や、つながりによる学びの連鎖が起こる社会で生活したい、学びの場が人を呼び込むとの意見がありました。

#### <理由> ○共感した ●共感できない

- 県南部以外は、習い事や私立中学・高校が少ないので、子供の学習の場の選択肢を増やしたい
- 学びの機会に溢れる地域特性は、企業や投資家の目にとまれば資金が集まり、親世代の目にとまれば人材が集まり、良好な経済効果を生むとともに、地域の活性化に繋がる
- 副業や兼業の希望者は増加傾向にあり、新たな業務を始めるうえで、学びの場は必要不可欠
- 自分自身と異なる職業の人や年代の人と学びの場を通して同じコミュニティに所属し、様々な分野の人とのつながりができると、それらの人を通してさらにまた違った学びの機会を得られる、そんな連鎖が起こる社会で生活したい
- 働きながら、移住先で役に立つスキルを学ぶ機会があれば、移住するきっかけになる
- 地域差や年齢格差をできるだけなくした環境を整え、学びの場を提供することが優先

### 5 磨かれる五国の個性 6票（○共感した 5票、●共感できない 1票）

移住や観光で訪れてもらうためには、その地域ならではの個性を磨くことが重要である、新たな文化の創造にも目を向けるべきとの意見がありました。

#### <理由> ○共感した ●共感できない

- 個性あふれる五国が同じ方向を向いて進んでいくより、それぞれの個性を活かして、地域の実情に合わせた進め方をしていた方がよい
- 自己実現の場や新しいビジネスモデルを生み出す場として、若い世代の地方移住が増えれば、地域資源を活用した雇用の創出など、田舎が魅力的な地域になれるのでは
- 「行ってみたい」と直感で感じてもらうには、歴史・文化遺産、美味しいもの、イベントなどこの地域ならではのキーワードが必要で、その個性を磨き、情報を発信していくことが重要
- 兵庫五国のそれぞれが個性を磨き、切磋琢磨することにより、県内だけではなく、将来的には県外からの移住者も増えるのではないかと

○地域に関わる全ての人のために、身近なものの価値を見直し、地域の遺産を数多く発掘し、磨き上げ、後生に継承することは大切

●文化の消滅を危惧する視点ではなく、新たな文化の創造に目を向け、積極的に色々な文化を取り入れ試行錯誤することが、ゆくゆく世界の文化における多様性の一角を担うためには必要

## 8 多文化が入り混じる兵庫 6票（○共感した 0票、●共感できない 6票）

治安の悪化や、地域文化への影響などを不安視する声がある一方、外国人が定住するような取組を行うべきとの意見もありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 兵庫は独自の文化や特性を尊重する地域。完全に溶け込んで根付くまで至るのか疑問
- 低賃金の外国人の単純労働者が地方部で増加しているイメージ
- 異文化が入ってくることで地域独自の文化を歪めないか、また外国人を受け入れることで治安が悪化するのではないか
- 技能実習生の低賃金や残業代の未払いによる実習生の貧困化、窃盗等の犯罪の助長
- マナーや文化の違い等が理由で、治安が悪くなり、日本人が安心、安全で暮らしにくくなる
- 外国人が地域に溶け込み、交流が増えることに加え、その外国人が定住するような取組も積極的に行うべき

## 16 最期まで安心して暮らせる社会 5票（○共感 2票、●共感できない 3票）

ICTなど新しい技術を活用した介護への期待がある一方で、超高齢社会における課題の困難さを悲観する意見もありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 保険外で高齢者を地域で見守る体制の確立や、ICTを活用した新しい介護技術の開発が重要
- 見守りやふれあいの場、技術の進歩により、在宅医療・介護が受けられる、家・地域にいながら日用品、食品が手に入る、体が不自由な高齢者でも快適で移動できるようになって欲しい
- 少子化と平均寿命の延伸による超高齢化、介護業界の人手不足、地域コミュニティの衰退等、実現のために解決すべき課題が多い
- 地方では地域の人口に対しての高齢者率は高くなると考えられるため、ただでさえ少ない中で24時間対応は一人一人の負担が大きくなる
- 少子高齢化の進展で支える側の手手がさらに減少することを考えると、ある程度は我慢しコンパクトシティを目指した方が良い

## 17 広がる縁 5票 (○共感した 1票、●共感できない 4票)

インターネット上の誹謗中傷の問題や、単なる施設があるだけでは、つながる場所とはならず、きっかけづくりが必要との意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- SNSなどの急速な普及により、オンライン上で共通のテーマなどで人と人がつながることが当たり前になりつつある
- インターネット上の誹謗中傷など、SNS等のバーチャル空間でつながりを広げること自体が必ず幸福に繋がるとは言えない
- 趣味や関心事、共通のテーマによるコミュニティや居場所が増えているとは考えがたい
- 関連シナリオが多いことから、このシナリオ単独での未来像よりも、各シナリオにこの視点を取り入れる、という方が良い
- カフェや図書館をつながる場所として利用するには、自治体等がきっかけを作る必要がある

## 22 自然と共にある暮らし 4票 (○共感した 4票、●共感できない 0票)

リアルな体験を求める人が増え、一層自然と共生する時代が来るとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 皆が「田舎暮らし」を始める中で、自然に対する考え方・接し方が変化し、より一層自然と共生する時代がくる
- 私たちの世代はプライベートを充実させ、お金より心の幸福を求む傾向があるので、それを育むには多自然を五感で感じる事が重要
- 高度なIT化が進んだ現代であるからこそ、人間本来の自然と共に過ごすリアルな体験を求める傾向が今後ますます増えていく
- 半農半Xのようなものを目指して丹波に来る人は増加してきている

## 26 進化する自治体 4票 (○共感した 3票、●共感できない 1票)

住まいの流動化が進めば、自治体間競争が加速し、行政サービスが効率化する、コロナ禍により電子化やオープン化のニーズが高まるなどの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 居住の場を選ぶ際に快適性や行政サービスが重視されるようになる。画期的、先進的な自治体に人が集まり、自治体間の競争は加速し、行政サービスの効率化が進む
- デジタル化により、窓口業務の縮小、手続きのオンライン化で残業時間の短縮が期待
- コロナの影響で、行政手続き等も更に電子化やオープン化のニーズが高まる

- 提供するサービスが人口の多い都市に集中し、人口の分散に繋がるかは疑問

### 35 地域のエネルギー自立 4票（○共感した 0票、●共感できない 4票）

エネルギーの自給自足は非効率ではないか、美しい自然を破壊してまで再生可能エネルギーの増産をすべきではないとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 自給自足的なエネルギー供給に拘ると、大規模なエネルギーの効率的な供給からは逆行し、かえって地域経済が疲弊する
- 兵庫県の美しい自然を破壊してまで、再生可能エネルギーの増産やカーボンニュートラルな社会を実現する必要はない
- 地域それぞれに強み、弱みがあるのでそこは補い合っていけば良い
- 兵庫県の美しい自然を破壊してまで、再生可能エネルギーの増産やカーボンニュートラルな社会を実現する必要はない

### 18 スポーツが育むつながり 3票（○共感した 1票、●共感できない 2票）

コミュニケーション能力の向上など運動によるプラスの効果があるとの意見がありました。一方で、子供が減る中で、スポーツクラブは減っていくのではないかととの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 運動は①生産性を向上②健康を増進③コミュニケーション能力を向上させるとの研究結果もある
- スポーツが苦手・嫌いな人の疎外感が増しそう
- 子どもの数が減り、学校も廃校・統合がすすみ、スポーツクラブも人数が少なくなっていく

### 28 引き継がれる風景 3票（○共感した 2票、●共感できない 1票）

変わらぬ風景は安心を生むという意見がありました。一方で、地域の人々が自分たちで選択する変化は生じてもいいとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 子供の頃から実施されている祭りの雰囲気や道に植えられている樹木やレンガ道など、町の大きな雰囲気は変わっていないことに安心するし、これからもそうであってほしい
- 地域ごとの風景・景観財産を大事にし、県内外を問わず人の訪れる地域づくりを進めていくのもひとつ方法
- 大事なのは、その地域の人々が地域に魅力を感じ続けることが出来ること。地域の人々が自分たちで選択する変化は、どんどん生じてほしい

### 33 開かれた学校 3票 (○共感した 0票、●共感できない 3票)

学校は「実践」の場としても機能すべき、オンライン教育の普及により、学校に行かせたがらない家庭が増えるのではないかとその意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 学校は「体験」だけでなく「実践」の場として、地域社会の結節点・推進拠点として機能すべき。教育の実践の場として地域社会を活用することで、新たな人材が呼び込める
- 科目や分野の勉強をすることは、学力以外の面でも、自身の力を向上させることに繋がる
- オンライン教育は、早くから受験を見据えている“教育熱心”な家庭など、子どもを学校に行かせたがらない家庭が出てくるのではないかと
- 苦手であったり自分の興味がなかったりする

### 34 未知の領域への挑戦 3票 (○共感した 0票、●共感できない 3票)

身近に感じられないシナリオであり、わかりやすい説明が必要との意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 他県ではなく兵庫県が率先して取り組んでいく理由が不明
- 具体的にどのような研究をしていて、その結果県民にどのような影響をもたらすのか良い面と悪い面の両方の視点から誰でも分かるように噛み砕いて説明できれば、少しは身近に感じることができ県民にも浸透しやすくなる
- 未知を拓く研究を行うより、県内に目を向けて成長を目指した方がよい

### 2 活力を支える健康 2票 (○共感した 2票、●共感できない 0票)

どこにいても、安心して医療が受けられる、高齢になっても健康に過ごすことができる社会が必須との意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 生き方や働き方の選択肢が広がったときに、どこにいても、安心して医療を受けられる体制が整っていて欲しい
- 2050年には65歳以上の高齢者の割合が約40%に。健康や医療に関するテクノロジーも年々進化すると想定されているなど、高齢になっても健康に過ごすことができる社会が必須

## 19 進む地域経済循環 2票 (○共感した 1票、●共感できない 1票)

兵庫の多様性の維持には、地域コミュニティの維持が重要であるとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 地元産業の形成・整備による地域コミュニティの維持と、その結果各地方が存続することは、当県らしい多様性を保つための根幹になる
- 地域の関係の希薄化が進んでいるといわれている都市部においては、このシナリオのような内容は実現しにくい

## 30 息づく芸術文化 2票 (○共感した 0票、●共感できない 2票)

リアルに触れる機会の減少により、若者が伝統文化に価値を見いだせなくなるのではないかと意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- オンライン環境を通じたコミュニケーションが主流となり、若者を中心に文化財をはじめとした伝統文化に価値を見出す人の存在が危ぶまれる
- 他に力を入れなければいけないものが多々ある中で、芸術文化を優先すべきだとは思わない

## 36 カーボンニュートラルな暮らし 2票 (○共感した 1票、●共感できない 1票)

環境負荷が少ないものづくりの視点も必要、車中心の社会が徒歩や自転車に移行するのがイメージができないとの意見がありました。

<理由>

- リサイクルの発想だけでなく、環境負荷が少ないものづくりやリユースの仕組みを考慮したものづくりといった視点も加えたい
- 「車は持つ物から借りる物になり電気自動車のシェアリングサービスが普及。」「徒歩や自転車での移動を選ぶ県民が増加している。」は、主に車移動で生活されている方が多い地域の方々の暮らしのイメージがつきにくい

## 37 危機に強い地域 2票 (○共感した 2票、●共感できない 0票)

災害への革新技术の活用が産業発展と地域づくりの連携にもつながる、また、ハードだけでなく、ソフト面での対策の検討も必要との意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

○革新技術の発達を災害予測や状況分析に応用することで、安全で暮らしやすいまちづくりに繋がり、産業発展と地域づくりの連携を検討できるよい機会にもなる

○インフラ整備といったハード面だけでなく、地域住民の安全性の確保といったソフト面での対策も検討する必要がある

38 安全を支える強靱な基盤 2票（○共感した 2票、●共感できない 0票）

便利な生活を送るにも強靱なインフラが不可欠であり、災害の事後対策の繰り返しを避けるためにも必要との意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

○家から1歩も出ずに生活の実現には強靱なインフラ整備が必要不可欠

○「大きな災害に見舞われ、それから長い時間をかけて復旧する」という事後対策の繰り返しを避けることにつながる

39 受け継がれる地域 2票（○共感した 0票、●共感できない 2票）

地域で閉ざすのではなく、国内外の人々で継承することが必要、ただ守るための活動を続けるのは難しいのではないかと意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

●「地域で閉ざされた文化や祭り」、「地域住民の負担ありき」ではなく、街の伝統文化に共感する国内外の人々で継承し、盛り上げることができるのではないかと

●SNS等でその地域の伝統や催しを知ったり、来てくれたりするが、その伝統や催しを守るための活動になるとなかなか引き継ぐのが難しい

6 ものづくり産業の革新 1票（○共感した 1票、●共感できない 0票）

地場産業が多い兵庫県において、越境ECサイトの普及は、コストをかけず、海外に製品をアピールすることが可能となり、大きなチャンスとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

○越境ECサイトの普及により、コストをかけず、海外に製品をアピールすることが可能となっ

た。これは地場産業の産地の零細企業からすれば大きなチャンス

**9 世界に貢献する兵庫人 1票 (○共感した 1票、●共感できない 0票)**

防災分野での貢献が兵庫の強みとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 日本と同様に地震の多いトルコでは、兵庫県の震災経験が活かされている。また、県立高校とトルコの学生間で、防災に関する交流会が英語で実施されている

**27 ともに創るまち 1票 (○共感した 1票、●共感できない 0票)**

人口減少下では、地域住民が主導となったまちづくりが必要との意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 少子高齢化によって、各地で人口減少が進んでおり、今後は、地域住民が主導となり、まちづくりを行っていく必要がある

**29 甦る豊かな自然 1票 (○共感した 1票、●共感できない 0票)**

兵庫県の水産資源は他県にはない魅力があるとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 日本の食料自給率が低い中、兵庫県の水産資源は非常に重要な位置づけであり、他県にはない魅力的なポテンシャルを持つ

**31 広がる生活文化産業 1票 (○共感した 0票、●共感できない 1票)**

ゴールがイメージできず、県や自分との関わりも不明との意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 具体的なゴールがイメージできず、共感できる部分がなく、県や自分がどう関わるかの不明

**12 ユニバーサルな地域 0票 (○共感した 0票、●共感できない 0票)**

該当なし

## 4 My未来シナリオ

### 1 個性の追求（40 シナリオ）

仕事より趣味を楽しみたい、個人が尊重され、多様な選択肢があつて欲しい、やりたいことに挑戦しやすく、やり直しがきく社会、儲かる農業が確立するなど、多様な選択肢の中から自分で選ぶことができ、その選択を尊重される未来を望む人が多かったです。

#### <自分らしさを追求できる社会 関連>

- 1 安心して自分らしい一生を追求できる
- 2 技術革新によるQOLの向上
- 3 自分から行動しなければ何も始まらない
- 4 労働の自動化・無人化
- 5 心の豊かさが充実させる暮らし
- 6 誰もが趣味を楽しむ生活
- 7 自分時間（余暇時間）が増大する未来
- 8 日本の国民が豊かに
- 9 個人を尊重できる社会
- 10 余裕ある生活
- 11 多様な生き方ができる兵庫
- 12 仕事中心ではなく趣味中心の社会へ
- 13 業務改善により個人の時間を確保
- 14 多様性を互いに認められる自由な社会
- 15 時間に縛られない働き方の実現
- 16 365日楽しみ続ける体力
- 17 多様な選択肢が尊重される社会
- 18 生き方に型を作らない社会へ

#### <活力を支える健康 関連>

- 19 健康的な生活が楽しめる社会
- 20 デジタルヘルスで超長寿社会が実現
- 21 人生の定年選択制

#### <自分らしさを追求できる社会 関連>

##### 1 安心して自分らしい一生を追求できる

#### <居住地の自由（都市部・多自然地域）>

どこにいても安心して医療が受けられる、学びたいときに学びたい場所で学べる、どこに住

#### <あふれる学びの場、沸き立つ起業 関連>

- 22 いつからでもリスタートできる社会
- 23 やりたいことに挑戦しやすい社会

#### <磨かれる五国の個性 関連>

- 24 兵庫県の解体 ～五国体制の復古～
- 25 ローカルプライドを抱く地域
- 26 地域の魅力の見える化
- 27 進化と伝統の共存共栄

#### <ものづくり産業の革新 関連>

- 28 新たな事業の創出
- 29 AIが溶け込む暮らしと産業
- 30 オーダーメイド品によるQOLの向上
- 31 シェアリングエコノミーの拡大

#### <進化する御食国 関連>

- 32 農業ロボット活用による地産地消の増加
- 33 広がる食文化
- 34 農業の進展
- 35 儲かる農業の確立
- 36 農業が取り組みやすい環境作り
- 37 場所を選ばず、管理や手入れができる
- 38 農業による高齢者の生きがいづくり
- 39 加工食品に頼らない自然食の推進
- 40 価値の創出

んでいても快適に移動できる、手厚い支援と支え合いで介護や子育てができる、災害への対策が万全で安心して生活できる、地域とのつながりがあり、単身者でも孤独を感じず、最期まで見守られ安心して暮らすことができる、国籍や性別に関係なく安心して暮らすことができる。

### <働き方の自由（都市部・多自然地域）>

どこでも起業・創業に安心して挑戦できる、国籍・性別・年齢に関係なく活躍できる設備や環境が整っている。（ビッグデータやAI・ロボット・先端デバイスの活用）

### <自分時間の充実>

地域のスポーツクラブ、芸術文化活動、地域活動の充実・活性化

## 2 技術革新によるQOLの向上

仕事を含む日常生活においては、テレワークの定着で通勤時間が減少する、自動化が進むことで生産性が高まる、それらによって週休3日になる。また、家事が自動化されたり、ネットショッピングやオンライン診療が定着することで、さらに自由時間が増加する。

また、科学技術の進歩によって、健康寿命も延伸する。これらにより、人生の中での自らが望むことに時間を使うことができ、生活の質、豊かさが向上する。

## 3 自分から行動しなければ何も始まらない

ほかのシナリオが自身の周りの環境のプラスの変化であるが、それを享受できるのは自分自身であって、自分から行動を起こさないとその環境の恩恵すら、何も受けられない。

多様性が広がり、現在よりも選択肢が広がるため、ますます自分から動く必要性がでてくる。

## 4 労働の自動化・無人化

AIなどの発達により、労働の自動化・無人化が進み、人間の労働時間は削減される。

人によっては、労働する時間は人生の1/10程度になり、自由な時間を自分の好きなこと、自分が選択した事柄に活用できる。

また、労働の自動化・無人化が進むことで、工事現場等での労働者の負傷や、長時間労働による精神的ストレスが減り、心身ともに健康に。

## 5 心の豊かさが充実させる暮らし

### <働く場所と時間を自由に選択、自分時間の拡大>

テレワーク等の活用により働く場所を自由に選択でき、職場にいかなくても、自由な時間の獲得することが、心の豊かさに繋がる。

### <地域全体が支える学びの場>

ICTを活用したバーチャル体験などが進む中で、実体験がより重要となり兵庫型「体験教育」がますます重要に。自然体験、社会体験、文化体験など様々な心動かされる体験を通して社会や地域への関心を高め、心の豊かさを獲得。

### <世代を繋ぐ地域社会>

世代を繋いでいくことが安定した社会を作る。人との繋がりを意識することが、心の豊かさとなる。

### <五国の個性>

地域の伝統文化や自然を大切にし、地域資源を磨き上げることが、地域の魅力を高め、ふるさと意識を醸成に繋がり、心の豊かさを充実。

## 6 誰もが趣味を楽しむ生活

人が1番輝いているときは、自分の好きな事を楽しんでいるとき。

仕事や育児をしている世代であれば、ロボットを活用し、それらの負担を減らし、趣味に割く時間をつくれる。

また、高齢者が、運転支援機能等を活用することで、免許を返納せずとも生涯に渡ってドライブを満喫したり、病院に入院していてもVRを活用することで、実際に行ったかのような臨場感でスポーツ観戦を楽しんだり、誰もが趣味を楽しめるような環境になれば良い。

趣味を通じて仲間もできるので、気のあう人とご飯や遊びに行くきっかけにもなり、充実した生活になる。

## 7 自分時間（余暇時間）が増大する未来

最低限必要な生活時間を減少させることで自分時間（余暇時間）が増大する。趣味や自分の好きな仕事などに費やす時間が増える。

余暇時間の増大に応じて余暇を楽しめる様々な形のアミューズメントが生まれる。

## 8 日本の国民が豊かに

居住環境が豊かに、多様な文化に触れられる、自由に学べる、大人にとっての憩いの場・子どもにとっての遊び場が充実、生まれた環境によって自身の人生が左右されない、日本にある世界へ向けて誇れる本質を国民が思い描ける、犯罪のない社会など

## 9 個人を尊重できる社会

### <新たな挑戦がしやすい環境>

誰もがやりたいことをして生き、可能性を広げていけるような社会。クラウドファンディングが更に普及し、新しいことを始めやすく、それを尊重し合える社会。

### <インターネットトラブルの厳罰化>

誹謗中傷を言う人に対する罰則の厳罰化がされ、SNS等が原因で鬱病になってしまう人や、命を絶ってしまう人がいなくなる。

## 10 余裕ある生活

### <仕事>

定年制度が廃止され、やりがいのある仕事に満足するまで取り組める、次世代を育てる、能力や成果で評価、勉強を続け、仕事に生かす、AI、ICT技術を活用して業務の効率化

### <生活>

どこに住んでいても自分のやりたい仕事ができる、各地のおいしく安全な食べ物が安く早く手に入る、勉強したい情報が簡単に手に入る、興味や関心ごとで簡単につながる。

### <家族>

家族がそれぞれ好きな場所に住んでも無理なく会える、親の収入に関わらず、学びたいことを学べる。

### <環境>

人と動物の棲み分けが進み、動物の個体数管理が確立、空気・水がきれい、再生可能エネルギー

ギアの利用により、資源の取り合い、枯渇を心配する必要がなくなる

## 11 多様な生き方ができる兵庫

兵庫五国の中で、自分の生まれ育った地域以外についても学校教育等で知る機会が増え、愛着を持つ地域を増やすことで、誰もが自分に合った生活・地域を選べるようになる。

人生を通して様々な地域にふれて、暮らし方、仕事、地域との関わり方という生活の基礎部分を自分で選ぶことで、満足のある生活に近づく。「県内で」多様な生き方を選べるようになる。

## 12 仕事中心ではなく趣味中心の社会へ

生活の中心を「仕事」ではなく「趣味」にすることで、過労死という言葉が消える。

- 週休3日の実現
- 人員を増やすことで仕事を分担し、毎日定時退庁当たり前、いつでも有休を取得できる
- 生理休暇を無くし、有給を3日多く付与
- 高速道路、公共交通機関の費用を安く、移動を気軽にし、趣味に手を伸ばしやすく

## 13 業務改善により個人の時間を確保

### <在宅の普及、業務のAI・ロボット化による個人負担の軽減>

- ・趣味、休息によるリフレッシュによりストレスフリーで仕事に取り組める
- ・子育て参加の時間の増加
- ・新しい知識を蓄え、新しいことを始めるきっかけに
- ・運動による交流や、身体機能の維持・向上
- ・副業による収益

### <勤務態勢のフレックス化>

- ・家族時間の確保（子育て参加）
- ・ワークライフバランスの実現
- ・自分の予定・ライフスタイルに合わせた勤務時間を設定

## 14 多様性を互いに認められる自由な社会

今の社会は「こうあるべき」という固定概念

にとらわれすぎている傾向にあり、少し変わったことをしても過剰に攻撃されるなど何となく生きづらいところが課題。

今のような生活・働き方をしても生産性は上がらないし、新たな発想も生まれず衰退していくばかりではないか。

生活の多様性がもっと認められ、自由に生きられる社会が理想。

### 15 時間に縛られない働き方の実現

働きながらも、家族と過ごす時間が十分に確保できる。フレックスタイム制がより浸透し、各々が好きな時間に働く。平日勤務土日休みが当たり前ではなくなる。

### 16 365日楽しみ続ける体力

#### <私生活>

- ・今よりも健康的に過ごす。
- ・交通機関の発達により、海外や宇宙もすぐに行けるようになってほしい。

#### <仕事>

- ・あらゆることに関心を持ち、常に学び続ける姿勢を持ち続けたい。
- ・職場の内外を問わず、人との交流を大切にしていきたい。

### 17 多様な選択肢が尊重される社会

「男らしく」、「女らしく」、結婚するべき、子供を持つべき等など日常生活の中でも、知らず知らずのうちに推奨されている“型”があり、そこから外れると生きづらさを感じてしまう。

“型”にはまり続けると新しい発見やさらなる成長の機会を奪いかねない。

これから考え方も生き方も多様化していく中で、多くの人が生きづらさを持たずに幸福に生活するためには、多様な選択肢が選択できる環境とその選択が尊重される環境が不可欠。

### 18 生き方に型を作らない社会へ

少数派や多数派という型すら古い価値観に

なり、誰もが虐げられることなく自分らしい生き方をすることができる。

## <活力を支える健康 関連>

### 19 健康的な生活が楽しめる社会

- ・スマートウォッチなどIoT技術の発達により、健康管理がより容易になる。
- ・コンビニやスーパーでもサプリメントやプロテインを含む健康食品を手軽に手に入れられる機会が増え、健康を考えるきっかけに。

### 20 デジタルヘルスで超長寿社会が実現

IoT化が進み、ウェアラブル端末や非接触型デバイス等による日常的な健康状態計測の精度が高くなっている。

医師が不足している地域においても、健康状態の常時見守りが可能になる。急激な体調の悪化がなくなり、健康寿命が飛躍的に延伸する。また、医療費も軽減する。

### 21 人生の定年選択制

人生100年時代の到来にあたって、個人の意見を尊重し、人生をいつ（何歳で）終わらせるのかを自由に設定できるようになれば、終わりが見え、より人生を楽しめるのではないか。

また、社会保障費の削減等により、現役世代の負担が軽くなれば、明るい未来が創造できる。

## <あふれる学びの場、沸き立つ起業 関連>

### 22 いつからでもリスタートできる社会

出産・育児、病気など様々な理由で、一時的に社会の枠組みから取り残されたとしても、当人が希望すればいつからでも、学び直し・働き直し等ができ、個々が自立できる支援体制が整っている社会

### 23 やりたいことに挑戦しやすい社会

やりたいこと、挑戦したいことがもっと出来る社会になれば毎日いきいき過ごせる。

海外のように、家族や自分に時間を費やせる社会になれば良い。

### <磨かれる五国の個性 関連>

#### 24 兵庫県の解体 ～五国体制の復古～

一つの県で様々な特性を持っているのが魅力であると思うが、あえて、一度5国体制に立ち返ることにより、それぞれの地域の魅力を尖らせることができるのではないかと。

#### 25 ローカルプライドを抱く地域

##### <選ばれる地域>

選ばれる地域は「個性を主張できる」地域。地域の「らしさ」を語るために、地域の魅力や強みに気づき誇りを持たなければならない。

##### <ファン拡大の連鎖>

価値の共有と波及によって、関係人口とその接点を増やすことが地域の存続にとって重要。

##### <人口減少社会への対抗>

少ない人口でも、「ローカルプライド」を抱く住民が多い地域は行動意欲の総量で勝る。

##### <ウェルビーイングの実現>

一世代が満足する束の間の財の追求ではなく、将来に残り引き継がれる永遠の財＝地域の宝物を大切に生き方が生活の質を向上し、社会が変容しても揺るがないウェルビーイングの支えとなる。

#### 26 地域の魅力の見える化

- SNSコンテンツ等の利用による不特定多数に対する魅力発信。
- 短期継続的に発信力のある者を招き様々な目線で魅力発見・発信を行う。
- 大人を対象とした体験学習を実施し、魅力に直接触れる機会を提供する。また、多種多様なコミュニティビジネスの体験の場を設けるなどし、地域活性の具体的なビジョンを与え、透明化を図ることで間口を広げる。

#### 27 進化と伝統の共存共栄

技術の進化が伝統的なものづくり文化を壊すことなく、職人の手による技術と共存している。さらに、職人が進化した科学技術を伝統工芸に取り入れることで、伝統工芸品が新たなステージへ昇華していく。

### <ものづくり産業の革新 関連>

#### 28 新たな事業の創出

##### <多業種な事業者の連携>

シェアオフィスやコワーキングスペースなどで利用者同士が交流を図り、多業種のアイデアが組み合わせることで、新たな事業の創出が促進される。

##### <地場産業の発展>

地場産業が従来関わりのない業種と連携することにより、新商品の開発や産地ブランドの確立に発展する。

##### <雇用の創出>

地域での事業創出に伴い、雇用創出がおきる。特に過疎地域においては、雇用増に伴い、若者のUJIターンが起きる。

#### 29 AIが溶け込む暮らしと産業

人々の暮らしと働き方はAIやIoT、デジタル化により最適化され、兵庫に住みながら北海道の農場管理など、住みたい場所に住み、働く場所を問わないテレワークが拡大しているのではないのでしょうか。

#### 30 オーダーメイド品によるQOLの向上

あらゆる「もの」がオーダーメイドできるようになり、県民一人ひとりが満足度の高い生活を送ることができる。

あらゆるものにおいてすべての製造会社でオーダーメイドできたら、顧客全員が満足していくものを使えるだけでなく、余剰生産物（廃棄物）がなくなり、地球にも優しいのではないかと。

### 31 シェアリングエコノミーの拡大

インターネット上にマッチングについてのプラットフォームが充実しており、モノやサービスの売買・レンタルが個人レベルで簡単にできるようになっている。対象物も多様化し、例えば、利用されていない土地・家が月単位でレンタルできるほか、家事やスキルを活用したサービスを気軽に提供・購入することができる。

### <進化する御食国 関連>

### 32 農業ロボット活用による地産地消の増加

ロボットの活用により、農業の重労働化が軽減され、休耕田などの田畑が再度活用されることにより、地元産作物の低廉化を図れ、地産地消が今後さらに増加する。

### 33 広がる食文化

土壌、気候などが原因で育てることができなかった野菜、果物、が技術の発展により、どの地域でも安定して作れるようになる。

魚の養殖技術が発展し、養殖するのが難しい魚も捕れるようになり、地産地消がさらに進む。

そして世界中の様々な食文化を兵庫県のいろんな地域で楽しめるようになり、多くの観光客が食べに訪れてくれる。

### 34 農業の進展

副業として、誰でも簡単に農業を始めることができるようになる。御食国の気候風土を活かした様々な種類の農産物が作られ、交通の発展により地域外の大きな市場に対しても容易に販売することが出来るようになる。

### 35 儲かる農業の確立

農業の持続的発展には、農業従事者の安定した確保、仕事の継続性が必要。

そこで、農業は儲かる職業であることを証明することが有効であり、そのためには、「作業の省力化」、「付加価値の向上」、「雇用の創出」の

実現を行政がサポートする必要がある。

### 36 農業が取り組みやすい環境作り

地域外の新規参入者を確保し、地域に定着して農業をしやすいように、後継者がいない生産者を品目ごとにリストアップしてマッチングをしていくことで、親方就農のように栽培経験と次期後継者として育成することができる。

また、スマート農業に関しても、専門の施設を設立し、ドローンの免許取得を支援できる体制作りや、集落ごとにスマート農業のリーダーを育成し地域の活性化を目指す。

### 37 場所を選ばず、管理や手入れができる

ため池の管理、農業も家でできるようになる。可能になれば、都会に住んでいても田舎にある実家の田んぼや畑の維持管理ができる。

### 38 農業による高齢者の生きがいづくり

#### <都市部でも農業を身近に>

都市部の空いた空間の有効活用として、廃校を利用した農園が作られる。また、レンタルできる道具や作業着、収納ロッカーなども整備されており、気軽に立ち寄ることが出来る。

#### <学びの機会と支援の充実>

プロの農家さんが定期的に都市部の農園に出張し講師として農業の基本や、農作業を進めていく上での指導を行う。高齢者は学びの機会を得ることで農作業へのモチベーションが高まり、自ら学ぼうとする姿勢を身につけ、健康を保つことが出来る。

#### <新たな交流の場>

都市部に作られた利便性に優れた農園には、農業に興味を持つ若者も頻りに訪れ、幅広い年代が集う空間となる。農作業をしながらお互いに知識を共有したり、収穫した野菜を分け合ったり、交流を深めることができる。

### 39 加工食品に頼らない自然食の推進

#### <家庭への食育の推進>

兵庫県が加工食品に頼らない自然食の食育文化を席卷していく。

#### <食品加工産業や外食産業への支援>

1人当たり食料支出を加工食品から生鮮食品へシフト、さらに拡大させる。

#### <生活習慣病に対する社会保障>

生活習慣病への認識を向上させ、加工食品に頼らない自然食へシフト。

### 40 価値の創出

#### <県内を自由に移動>

気軽に移動できる交通手段が増えることで県内のあらゆる場所を巡る機会を得ることができる。このことにより、交流人口が増加し、また県内の魅力を実感できる機会が増え、田舎暮らし等が促進される。

#### <農業の発展と交流>

農業への関わり方も見直され、専業・兼業の区分以外の多様な関わり方も生まれる。

また、県内を自由に移動することにより生まれる交流から、新しい販路の拡大や農業人材の確保等の機会も得られ、農業所得の向上や今まで気づかなかった価値の創出に繋がる。

## 2 開放性の徹底（7 シナリオ）

偏見のない社会、究極的には、「障害（者）」という言葉・概念が消失する社会など、多様性が認められる未来を望む人が多かったです。

#### <なくなるジェンダーバイアス 関連>

- 1 ハラスメントのない社会
- 2 多様性が認められる社会
- 3 偏見のない社会
- 4 男女関係なく、すべての人が働きやすい

#### <ユニバーサルな地域 関連>

- 5 「障害（者）」という言葉・概念の消滅

#### <バーチャルが拓く可能性 関連>

- 6 家から一歩も出る必要がない社会
- 7 「日常」に広がるAI、ICT、IoT

#### <なくなるジェンダーバイアス 関連>

##### 1 ハラスメントのない社会

学校での授業や職場での研修などハラスメント防止教育の充実により、相手の立場・気持ちへの想像力が豊かになる。他人を思いやることにより、職場や家庭において、あらゆるハラスメントがなくなっている。

##### 2 多様性が認められる社会

どのような選択をしようと、その人が普通の生活を送れるような制度が充実し、周囲に

その選択が受け入れられることはもちろん、それが特別な選択ではなく数ある選択肢の一つとして認識される社会であってほしい。

##### 3 偏見のない社会

性的少数者や、障がい者、妊婦など、社会で偏見や差別に苦しむ人が、自分らしく、自由に生きられる社会になる。

具体的には、同性カップルの結婚を認めること、障がい者が社会で活躍できる環境を整備すること、マタニティハラスメントを防止することなどが考えられる。

#### 4 男女関係なく、すべての人が働きやすい

##### <女性>

- ・自分のキャリアアップをあきらめないような働き方を目指す
- ・職場に託児所や児童館をつくり、産後・育児から復帰しやすい環境をつくる
- ・会社全体で見守る仕組みをつくり、産後うつや育児ノイローゼを防ぐ
- ・企業の中で、女性の割合をさらに高く義務化する

##### <非常勤職員>

- ・非常勤職員と正規職員の待遇の差をできる限りなくし、元の職場復帰に難しい人にも、新しい職場で働きやすい環境をつくる

##### <ユニバーサルな地域 関連>

#### 5 「障害（者）」という言葉・概念の消滅

バリアフリー（社会）の行き着く先は、全ての人にとってバリアがない＝不自由を感じることのない状態であり、これが実現すれば「障害（者）」という概念そのものが消滅。

##### <バーチャルが拓く可能性 関連>

#### 6 家から一歩も出る必要がない社会

- ・職場へ行く必要がなくなる。
- ・買い物なども宅配、通販でより便利なサービスが生まれる。

- ・娯楽としても、家にいながら旅行やスポーツ観戦がリアルに感じられ、現地に行く必要がない。

#### 7 「日常」に広がるAI、ICT、IoT

##### <完全自動運転技術の確立>

目的地を（音声）入力するだけで、利用者のニーズに合わせた最適なルートでその場所まで連れて行ってくれるような自動運転技術を有した車両が一般家庭に普及する。

##### <家事援助、介護支援ロボットの普及>

一般家庭においても家事援助、介護支援ロボットが普及し、家事や介護に係る負担を減らすとともに要介護者等が可能な限り、施設に入所せずとも居宅で生活を続けられる。

##### <健康増進に係る援助と各種サービスとの連携>

在宅療養者の過去の病歴や当日のバイタルデータから、適当な食事メニューや運動プログラムを提案し、配食サービス事業者や訪問リハビリテーション事業者に情報共有することによって、適当なサービスの提供及び健康増進に寄与する。

##### <あらゆる言語に対応した瞬間自動翻訳機の登場>

言語の壁を越えて円滑なコミュニケーションを図るため、あらゆる言語に対応した瞬間自動翻訳機が登場する。

##### <情報セキュリティに係る教育の充実>

年齢や職種を問わず、情報セキュリティに係る理解が深まるような教育が推進される。

### 3 つながりの再生（25 シナリオ）

若者が安心して子供を育てられる兵庫になってほしい、互いに助け合うことで、人と人がつながる社会、地域の中で役割や生きがいがあるシナリオなど、つながりの中で、安心して子育てができる、高齢になっても安心して暮らせる未来を望む人が多かったです。

#### <つながりを広げ、深める家族 関連>

- 1 つながりのある地域
- 2 人と人のつながりを大切にする社会

#### <楽しく子育てできる社会 関連>

- 3 安心して子育てできる社会
- 4 海外ライクなライフ・ワーク・バランス
- 5 若者が安心して子供を育てられる兵庫へ
- 6 子供とシニアに優しい地域社会の提供
- 7 子供が楽しく生活できる未来
- 8 妊娠、出産から育児まで切れ目のない支援
- 9 保育の自由化

#### <最期まで安心して暮らせる社会 関連>

- 10 孤独を感じない孤立社会
- 11 世代間の交流が進んだ住みやすい社会
- 12 少子高齢社会に負けない兵庫
- 13 互いに助け合い人と人がつながる社会

- 14 ロボットが提供する安心で豊かな暮らし
- 15 自分の意思で選ぶ終末期

#### <広がる縁 関連>

- 16 すべての人に役割、生きがいがある世の中
- 17 居場所を見つけ、自己肯定感を高められる
- 18 地域が「見える」暮らし
- 19 世代間の交流を増やす

#### <スポーツが育むつながり 関連>

- 20 クライミング王国兵庫

#### <進む地域経済循環、自分たちでつくる地域 関連>

- 21 環境・経済・地域にやさしい社会の先駆け
- 22 県民が創造する地域
- 23 県民全員が投票する兵庫
- 24 自分たちでつくる「まち」
- 25 住民同士でつながる魅力ある地域づくり

#### <つながりを広げ、深める家族 関連>

##### 1 つながりのある地域

地域や人とのつながりが広がり、地域全体で助け合える社会となっている。地域での交流イベント等が増え、新たに居住される方も参加しやすいコミュニティとなっており、災害時にも助け合える地域となっている。

##### 2 人と人のつながりを大切にする社会

- ・ 家族や友人、地域の人など、他者とのつながりを大切にしている。世代を超えたつながりができる機会が多くある。
- ・ 誰もが、支えを必要とする時に身近に相談することができる人がおり、孤独を感じない。

- ・ いつでも誰とでも（一人でも）気軽に訪れることができる場が身近に多くある。

#### <楽しく子育てできる社会 関連>

##### 3 安心して子育てできる社会

#### <子育ての負担がない社会>

子育てにかかる支援（経済的、肉体的など）が充実し、誰もが結婚や出産、子育てに希望を持ち、それが実現できる社会となっている。

#### <子育てのための整った環境>

保育や教育の環境が充実することで、質の高い保育や教育を誰もが身近な場所で容易に受けることができる。

#### 4 海外ライクなライフ・ワーク・バランス

男女の差なく、長期休暇や育児休業を取得しやすい環境づくりのため、他組織のモデルケースとなるしくみを作る。

長期休暇でリフレッシュする人の事例や、男性の長期育児休暇取得者先進的に取り組む職員に対し、インタビューを実施し、庁内メールマガジン等で発信して様々なスタイルの休暇取得者がいることを周知することで、長期休暇を取得しやすい雰囲気を作る。

#### 5 若者が安心して子供を育てられる兵庫へ

子育て世代への税制優遇や、子供への医療・教育体制を拡充し、これからの兵庫県を担う人材育成に投資する。

全国的に子育てのモデル県として広報し、進学や就職、結婚で、兵庫を離れた若者にUJIターン先として選択してもらえる街作りを進める。

犯罪や交通事故を減らし、教員の働き方改革と不祥事対策を進め、子供が安全に育つ社会を目指す。

#### 6 子供とシニアに優しい地域社会の提供

自治会や地域コミュニティの充実をより図るほか、老人ホームと小学校との連携や県内企業と自治会との連携など、連携を強化できるマッチング支援等の充実も図っていききたい。

#### 7 子供が楽しく生活できる未来

共働き時代に女性は復職ができる、男性は単身赴任にならないよう異動は配慮される。祖父母などの育児サポートがない場合の駆け込み寺、子供たちがのびのびと学べる学校。なにより両親、子供が不安にならない生活が出来るよりよい未来がほしい。

#### 8 妊娠、出産から育児まで切れ目のない支援

- 様々な面で物的・金銭的援助が受けられる。
- 困ったときに相談できる相手がいる。
- 男女ともに育休産休が取りやすい。

- 家・職場から近い保育所に通わせられる。
- 子どもと過ごす時間を多く持てる。
- 小1の壁が解消されている。

#### 9 保育の自由化

1つの保育所に入所させるという考え方ではなく、利用したい時に利用したい場所で保育を受けることができる体制が整っていれば良い。

#### <最期まで安心して暮らせる社会 関連>

#### 10 孤独を感じない孤立社会

一人一人が好きな場所で、自立しながら健康に生きることができる社会が理想である。

無人化地域に居住していても、バーチャルリアリティの進化・普及により対面で無くとも人と繋がれ、自宅にいながら医療を受けられるなど、不自由なく暮らせる環境が整っている。

#### 11 世代間の交流が進んだ住みやすい社会

教育の場や地域での世代間交流の機会の創出により、日頃から世代間の交流を図ることが重要。教育の場で、高齢者から若者世代にこれまでの経験や知識を伝えることや、地域で多世代共同でのイベントの実施などが考えられる。

交流の機会が増えることで互いの面識も増え、日頃からあいさつや声かけをしやすい環境ができ、世代間の相互理解が深まる。

#### 12 少子高齢社会に負けない兵庫

#### <高齢者シェアハウスの普及>

他者と交流があり刺激し合える日々を送れるため、認知症予防や孤独死予防にもつながる。高齢者が一カ所に集まって住むことで医師が効率よく多くの人を往診できる。介護体制が整っているため入院して身体状況が変わっても帰って来やすい。

#### <地域で助け合えるサポート体制の構築>

地域住民が生活サポーターとなることで、高齢者が生活する中で支援が必要なことのうち、

簡単な手伝いはサポーターが担い、専門知識が必要なことはヘルパーなどの専門職が担うという役割分担ができる。サポーターは元気高齢者や学生でもできるため、限られた介護人材でも多くの高齢者のケアが可能。

### 13 互いに助け合い人と人がつながる社会

この社会が実現するためには、「助けてほしい」時に「助けがある」状態になる必要がある。

例えば、週3日は会社で働き、週2日はシェアリングエコノミーにより自分のしてみたいことなどを見つけて働くことにより、それぞれが働き方を選択し、互いに助け合い、人と人がつながる社会になる。

### 14 ロボットが提供する安心で豊かな暮らし

家事ができて、コミュニケーションもとれるうえに、健康の把握もしてくれる万能ロボットがいる未来。外出の介添えもしてくれるので、引きこもることもなく、地域の人も繋がりを維持できる。

### 15 自分の意思で選ぶ終末期

人生の終末期の治療方針を自分の意思で選択できる。誰もが自身の最終段階において希望する治療方針を意思表示しており、それに基づいた治療がなされ、意思表示できない場合でも、家族の意思が尊重される。死についてのタブー視が軽減され、尊厳死（安楽死）を選ぶハードルも低くなっている。

### <広がる縁 関連>

### 16 すべての人に役割、生きがいがある世の中

高齢化が進み、地域の中でも高齢者が増えていく中で、定年退職をしてもまだまだ元気で活力のある高齢者の方にも役割をあたえ、地域の中で活動してもらうことにより、高齢者にとっても地域にとっても良い相乗効果が得られる。

ITなどの進歩によって、今後の世の中が今ま

でと大きく変わっていくと思いますが、人と人とのつながりが地域にとっては、一番大切な事。

### 17 居場所を見つけ、自己肯定感を高められる社会

その人に合った居場所で伸び伸びと活躍できれば、自己肯定感を高めることにつながり、精神的に豊かな暮らしにつながる。

そのためには、自分にあった居場所を見つける仕組み作りが必要。学校でも、職場でも、地域でも、人生のどの段階でもそれを見つけられるような社会ができることが理想と考える。

### 18 地域が「見える」暮らし

地域の取り組みや生活が、街を歩いているだけで「見える化」すれば、新しい趣味との出会いや思いもよらない発見ができ、新たな楽しみや繋がりが生まれるのではないか。

#### <スポンジ化した街の空き家で地域住民が活動>

- ・地元の人が自分の趣味や仕事をする場や、サテライトオフィス・作業スペースとして活用。
- ・地域外の人でもその地域で活動がしたい人であれば利用し、外にも開けた活動がされている。
- ・地域の空き家マップが作成されており、地域内外の人が使える物件を簡単に探せる。

#### <街での活動・魅力が地域のアプリ等で見える>

- ・地域内の活動等はアプリ等で地域のマップとともに情報が取りまとめられており、街を歩きながら、誰でも簡単に街のことを知れる。
- ・地域の活動等だけでなく、ちょっとした街の魅力もまとまっている。

### 19 世代間の交流を増やす

世代間の交流を深め、文化を継承・守っていく必要があると感じる。

教養を吸収しやすい幼少期に日本文化に触れ、理解することが重要だと考えるため、3世代大家族の発展により、世代間の交流が活発化することで文化を受け継ぎ、古き良き考え方を絶やさず、様々な考え方を共有することが可能。

## <スポーツが育むつながり 関連>

### 20 クライミング王国兵庫

兵庫県内にはクライミングができる自然の岩場が数多くある。国内最初期のクライミングエリアである六甲山堡壘エリアや北山公園、武庫川ボルダー、雪彦山の巨大な岩峰、公にされていないエリアも含めれば数十カ所に及ぶ。兵庫県は潜在的にクライミングにとって価値のあるエリアだと言える。

今後増加が見込まれるクライミングへのニーズを取り込みつつ、県内の競技人口を増やし世界で活躍する選手を育成するためにこれらの資源を活かすと共に、大規模のクライミング施設を兵庫県に建設することで県内外から人を呼び込むことが出来る。

## <進む地域経済循環、自分たちでつくる地域 関連>

### 21 環境・経済・地域にやさしい社会の先駆け

県民自らが地域循環型経済を営むことにより、①「外注頼りでなくとも、自分たちで補える」という消費者の意識改革。②地元産業の創出と地域コミュニティの維持を実現し、①環境と高生産経済を両立、②仕事外時間の充実、地方活性化を得る。

### 22 県民が創造する地域

ドローン技術の進展を皮切りに、県民自身がまちをデザインするという志向が拡がりを見せ、まちづくりを実行する新たな自治組織（自治会の発展型）が確立されている。

### 23 県民全員が投票する兵庫

現代社会において、他者への無関心が顕在化しているが、県民が行政活動に積極的に参加する社会になり、政治への関心が高まり、皆が当たり前前に投票する社会に変革を遂げている。

### 24 自分たちでつくる「まち」

地域住民同士が結束を強めることによって、介護や子育て等を住民同士で行い、住民が必要なサービスを受けることができるような社会を目指す。

### 25 住民同士でつながる魅力ある地域づくり

#### <地域住民によるコミュニティの形成>

コロナ禍後、若者や新規企業が参入し、シャッター街や空き家等を有効に活用することにより、地域のコミュニティの再生を行い、地域住民でにぎわうまちが復活する。

さらに、コミュニティバス等の運用により地域内の移動を容易にし、地域住民同士の交流の機会を更に増加させることで、地域住民のつながりを深め、地域住民が主体となるまちづくりが行われるようになる。

#### <地域住民による伝統文化の継承>

観光名所となっている文化遺産や地域の伝統文化に関心を持つ外国人や若者が次々と参入し、SNS やインターネットの活用を通して地域固有の文化の魅力を発信していくようになる。観光名所を訪れる外国人や若者らと地域住民との交流により、多様性を生かした地域文化の継承を目指すようになる。

## 4 集中から分散へ（44 シナリオ）

働く場、住まう場を自由に選べる社会、県内全域が生活圏になるなど、都市と田舎両方ある兵庫で、多様な地域性を感じながら、快適に暮らせる未来を望む人が多かったです。

### <都市と田舎の共生 関連>

- 1 酒の都・神戸の中心地
- 2 人口の大移動
- 3 都市と利便性の差を感じない田舎
- 4 田舎でのつながり強化と行政サポート
- 5 どこでも生活環境水準の維持向上
- 6 ライフスタイルに応じた暮らし
- 7 人と物が行き交う社会
- 8 どこに暮らしても変わらない生活水準

### <自然と共にある暮らし 関連>

- 9 自然と共にある暮らし
- 10 安全安心な緑豊かな地域
- 11 非日常と繋がる生活

### <自由になる働き方 関連>

- 12 個性を活かした魅力的な暮らしの追求
- 13 人とAI・ロボットの共存
- 14 パラレルキャリアの人生設計
- 15 マルチワーカーによる発展
- 16 変化しつづける生活
- 17 AIとの共存、温故知新
- 18 暮らしの場所・仕事の場所の自由
- 19 働き方の多様化
- 20 働く必要がある場合のみ働く社会
- 21 自分のペースで暮らす、働く
- 22 ヴァーチャルオフィスによる県庁業務

### <軽くなる住まい 関連>

- 23 自由な居住地とゆとりある暮らし
- 24 ライフステージ毎の住み分け
- 25 多種多様を受入れ、人々が循環する地域
- 26 鈍化する人とモノの動き、加速する情報の動き
- 27 自然を感じながら安全・安心に暮らせる

### <快適になる移動 関連>

- 28 快適な移動、そして共生へ
- 29 都市と農村を安全安心に移動できる
- 30 快適になる移動
- 31 県内全域が生活圏
- 32 電車内でのリアル体験
- 33 ドローンの普及
- 34 広がる生活圏
- 35 移動（異動）が障害とならない社会
- 36 1つの拠点で全てが完結する暮らし
- 37 快適に外出できる地域
- 38 地域の安全安心な移動

### <進化する自治体 関連>

- 39 ICT技術で豊かになる社会
- 40 全県民の積極的なICT活用
- 41 県庁イメージチェンジ
- 42 行政手続きの電子化
- 43 愛着が形成される地域
- 44 マイナンバーカードの進化

### <都市と田舎の共生 関連>

#### 1 酒の都・神戸の中心地

灘五郷の酒造りの歴史と文化が根付く神戸で、県内の農産物を原材料としたクラフトビールを醸造し、週末を中心に活気あふれる神戸市

内にて醸造所併設のビアバルを経営。こだわりのビールは愛好家から高い評価を得て、日本酒、神戸ワインとともに酒の都・神戸を代表する観光資源となっている。

ビアバルに集まる多種多様なお客様から、ビッグデータ等では拾いきれない街の声を直接

聞くことができ、それらを新たな施策の参考にすることも可能となっており、美味しいビールを世の中に発信するだけでなく、街の声を集約する役目も担う、まさに酒の都・神戸の中心地となっている。

## 2 人口の大移動

上郡町、たつの市、佐用町にまたがるデザイン性が高く、美しい都市「光都」に県庁所在地を移転し、幻であった100万都市を実現させる。

## 3 都市と利便性の差を感じない田舎

住む場所は静かで自然の多い田舎のほうがよいと思うが、田舎は利便性に欠けると感じる。AI、ロボット等の技術が進歩し、人の少ない田舎でも利便性の面では都市部との差を感じないようになればいいと思う。

## 4 田舎でのつながり強化と行政サポート

災害時のみならず、日常生活においても助け合える環境・絆の形成が必要。ただし、過疎化が進むにつれ、住民の負担が年々大きくなっているため、行政の適切なサポートが必要。

負担を感じない適切な距離感で付き合える、過疎化が進んでも住民も遠く離れたその家族も不安なく生活出来る田舎をつくりたい。

## 5 どこでも生活環境水準の維持向上

リモートワークの整備・浸透に加え、行政を含むサービスや娯楽など、生活を充実させるためのものの差が小さくなれば、利便性を求めて都市部へ移り住む必要性が低くなり、好きな場所で生活できるようになる環境が整えられる。

そのためには、各種サービスのデジタル化推進と共に、世代間や健常者・障がい者間、経済格差、得手不得手などにより発生するデジタル・デバイド解消をはじめ、情報のバリアフリー化・IC 機器のユニバーサルデザインの導入が進むことが必要である。

## 6 ライフスタイルに応じた暮らし

例えば都市部の家と田舎の家をセットで貸し出して定期的に田舎で生活してもらえるような工夫や、家の定額プランの選択肢をより充実させるなど少しでも自然の多い地域の良さに触れてもらうことが大事だと思う。

これまでは仕事や生活の利便性で住む場所が都心部を中心に考えられてきたが、住む場所に制限がなくなれば、自分の理想のライフスタイルを実現できる可能性が一層高まり今よりも充実した生活を送ることができる。

## 7 人と物が行き交う社会

- ・多自然地域では、半農半X、スマート技術の浸透により、新たな担い手が増加、定着し、それぞれ特徴ある多自然地域が維持、活性化。
- ・交通網の発達に加え、オンライン化、テレワーク等の浸透により、居住地や男女問わず育児と仕事の両立ができる。各年代で、趣味や自分のために使える時間が増える。

## 8 どこに暮らしても変わらない生活水準

リモートワークや、バーチャル空間を押し進めることによって、どこに住んでいても仕事がしやすく、子育てもでき、擬似的ですが旅行や移動も可能になることによって、好きな物が身近にある所に住むことが可能になる。

好きなところで生きて、場所を選ばず仕事を選んで、自身の生活を行って、生きてきたところで過ごせられるのが理想。

## <自然と共にある暮らし 関連>

## 9 自然と共にある暮らし

旅行やレジャーといった余暇も楽しみたいし、今までの職歴を活かし働きたい。

丹波市を拠点に、夏は竹野海岸や砥峰高原、冬は氷ノ山で過ごし、実家や孫を世話しに神戸・大阪にも頻繁に通う。国道・県道が整備され県内を移動するのも楽になった。

近所の畑で黒豆を栽培し、黒ニンニクを作り、神社で銀杏を拾う。

## 10 安全安心な緑豊かな地域

兵庫県は、地域に多様性があり、ハイキングや登山など都心に住む人も身近に県内でアウトドアを楽しむことができる魅力がある。このため、より一層ハイキングコースや登山コースが整備されることで、全国からも人が集まり地域も活性化する。

## 11 非日常と繋がる生活

労働時間の短縮や在宅勤務の普及、快適になる移動等で、個人の自由な時間が増え、週末は仕事を忘れて非日常を体験しに、都市部から地方（地方から都市部）へ観光で訪れる人が増える。オンオフの切り替えをしっかりとすることで十分に休息することができ、充実した毎日を送ることができる。

## <自由になる働き方 関連>

## 12 個性を活かした魅力的な暮らしの追求

2050年には、人生の時間を働くこと以外にあてる、もしくは個々のウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）を一番の優先事項として考え報酬を得るような働き方が主流となる。

どこにいても働ける環境となると、より環境の良い場所で暮らし働きたいと多くの方が考えるようになる。そのような中、非常に自然豊かで農畜産物も多く、瀬戸内海や日本海など水産資源も豊富な兵庫県が選ばれる場所になる。

## 13 人とAI・ロボットの共存

### <円滑な転職にかかる仕組みづくり>

AIやロボット技術の台頭により職を失った人が、能力を発揮できる新たな仕事が創出され、新しい職種に適応するための就労支援が充実しており、円滑な転職が可能となっている。

## <AIやロボット技術の適切な活用のための教育>

「AI等の技術を有効に利用するための手法」、「対人コミュニケーション・対人交渉」、「データ・ルールに縛られない創造力」、等について、学校教育で学ぶ機会が充実している。

## 14 パラレルキャリアの人生設計

### <働き方の改革>

週休3日制になっており、第二の活動に充てる時間が十分に確保できる。

### <活動場所の発掘>

パラレルキャリアを積むことができる環境がある。NPO法人や学校、病院でのボランティアの受け入れが充実している。企業での働き方として、週1回出勤という選択肢を作る。資格取得のためのセミナーが充実している。

## 15 マルチワーカーによる発展

1つの企業や自治体が様々なスキルや経験、人脈がある人材（マルチワーカー）を雇用することで、新しいサービスや商品開発・販売戦略、また、新たな繋がりができ、今までになかった事業やサービスの展開ができるようになるのではないかと。

## 16 変化しつづける生活

フルタイムで働きつづけていたいが、出勤する日もあれば家で働く日もあっていい。

行政の手続きがすべてデジタル化されており、スマホから手続きが可能になっているため、窓口業務が大幅に縮減されている。

生活のなかで技術の革新が進むが、リアルの体験を重視する心は持ちつづけていきたい。

新しい人、技術に敏感に反応し、取り入れていける柔軟性を持つ自分と社会でありたい。

## 17 AIとの共存、温故知新

人員を導入しなくても良い仕事には人工知能に任せ、今まで以上に効率的な社会になって

欲しい。一方、昔ながらの人情味のある環境が薄れることも危惧している。

住んでいる地域毎に交流の場を設けることにより、人情味あふれ、活気のある、地域作りが必要だと考える。

## 18 暮らしの場所・仕事の場所の自由

オンラインでも直接会うのと変わらない感覚が得られる。兵庫県外に住みながらも、兵庫県の職員として働ける。仕事のための転居や、単身赴任がなくなる。

## 19 働き方の多様化

自分のライフスタイルに合った働き方が選べる時代

### <テレワークの導入>

テレワークにより通勤時間等がなくなる。  
⇒自己研鑽とともに趣味や休暇につかえる

### <週休3日勤務の導入>

時間的に余裕が出来て、自由な時間が増加する。⇒農業と仕事の両立が可能になる  
地域のモデル的な兼業農家を目指す！

## 20 働く必要がある場合のみ働く社会

勤務時間や勤務場所に縛られない社会で、全ての職種がフリーランス的な働き方になれば良い。基本的なやりとりを全てPCで行うことで、出勤の必要がなくなり、心の余裕、時間的余裕、また、経済的余裕も生まれ、家族との時間やプライベートの時間がより一層充実する。各種窓口等の業務はロボットが遂行し、真に必要なときのみ出勤する。

可能な職種等、様々な問題があるかと思うが、人生が仕事に縛られない社会になってほしい。

## 21 自分のペースで暮らす、働く

「働くための場所＝職場」の概念はなくなり、自分が最も快適と感じる場所が職場になる。

住まいの前提が「働きに出るための拠点」から、自分のライフスタイルに応じて複数の住まいを持つ「多拠点生活」へ。

定年廃止で生涯現役→生活拠点が点在することで、人・地域との「つながり」は拡がり、コミュニティ内では自分の特技を活かして様々な仕事をするようになる。

## 22 ヴァーチャルオフィスによる県庁業務

自分のアバターを作り、各自の執務室や相手の執務室へ訪問できる仕組みを導入。表情（動画）を出さないといけないときは、ミーティングモードを使い、来客の際は、周りにわからないVIPルームで対応するなど。

電話やメールに掛ける時間を削減でき、システムにより月に1回程度の出勤で良いとなれば、通勤による縛りが不要となり、地方の魅力が増し、地方創生にも寄与する。

## <軽くなる住まい 関連>

## 23 自由な居住地とゆとりある暮らし

狭小な住宅の都市部からゆとりある住まいを求めて都市郊外や多自然地域への移住

多自然地域の空き家を低廉な価格で取得、DIYで住まう（お金をかける対象が住まいから人（自分や子供）へ）

地域には、同様の移住者のコミュニティ、有志によるDIYで地域の居場所づくり

## 24 ライフステージ毎の住み分け

旧五国それぞれがもっと具体的な役割やイメージを持っている。具体的には、自然が豊かな但馬や播磨で育ち、人や企業が集まる摂津や淡路でバリバリ働き、但馬や播磨に戻って子育てをし、老後は都会に近い田舎である丹波で暮らす。という流れができていく。

各市町を旧五国として合併するくらいのイメージで方向性を示し、その方向性に合わせて、各市町が税金の使い道を重点化する。

## 25 多種多様を受け入れ、人々が循環する地域

住む場所をライフステージに合わせて変えていくことが一般化する。移住先にあった伝統行事の特色を守るとともに、自身の地元作りのために、地域に住む人全員が主体的に関わりながら生活していく。さらに、言語や移動手段の壁が無くなり外国人観光客・移住者が増加する。

## 26 鈍化する人とモノの動き、加速する情報の動き

モノの一部がデータに置き換わり、現実に必要なモノの種類も減少。そうしたモノは、現在のレコードや薪ストーブのような、あえてそれを使う場面を除いて使われなくなる。

3Dプリンターの普及により、世界の貿易は減少。運送トラックの自動化などで物流の効率が上がり、物流システム全体が縮小する。

ARやVR、MRの発展などで情報の数や質が向上し、今後さらにデータの重要性が高まる。

## 27 自然を感じながら安全・安心に暮らせる

自動運転や多様なモビリティを安全に利用するための道路基盤などが、過密でない農村部で整備が進み、子どもや高齢者などが安全に移動することができるようになり、不便な地域という弱点が解消され、強み、地域の魅力へと変わればよいと思う。

自然の豊かさを感じながら、心豊かに生活できる住みやすい地域として、選ばれる地域になってほしい。

### <快適になる移動 関連>

## 28 快適な移動、そして共生へ

都会と田舎では交通量や車線の数などが違うため、運転する必要がない且つ（待ち時間や価格など）利用しやすい移動手段を確保する必要がある。気軽に都会へ移動できる手段を確保することは、若者を呼び込むという点でも重要。

## 29 都市と農村を安全安心に移動できる

1人1台又は1世帯1台、子どもから高齢者まで自由に移動できる交通手段が確保されることで都市部への移住が食い止められる。

さらに、画期的な移動手段が開発され、日本全国からすぐに東京まで移動できるようになれば東京一極集中問題なども改善される

## 30 快適になる移動

淡路島内の公共交通網を発展させることで高齢者が住みやすい環境を整えることができる。また、観光客に対しても、移動手段が確保できるという点で大きなメリットになり、淡路島の観光産業もより活気づく。

## 31 県内全域が生活圏

移動時間や交通費等の面で五国間の距離が近くなっており、県内全域が生活圏となっている。ある日は神戸のオフィスで仕事、ある日は但馬でワーケーション、ある日は播磨で家族と過ごす・・・等、広い範囲で生活できる。

「都市と田舎」「平日と週末」といった2軸だけではなく、仕事も住居も余暇も、もっと毎日を流動的に過ごせる。

## 32 電車内でのリアル体験

普段から会話がしやすい電車内になっており、車内の人と接する時間、リアルな空間を楽しめる世の中になっている。

電車内で講義を行ったり、急に楽器演奏や演劇発表をしたり、生のパフォーマンスを体験する場として、電車を活用した学びや芸術鑑賞が日常の一部になっている。

## 33 ドローンの普及

一家に一台ドローンを配布。老人の方々の定期的な薬など、病院へ取りに行かなくてもドローンで取りに行ったり配布ができる。テイクアウトもドローンで受け取り可能に。

### 34 広がる生活圏

郊外にも快適なネットワーク通信環境が整備されており、都市部に住まなくてもテレワークなどの環境が整備しやすくなっている。

都市部との交通が容易で短時間での移動が可能となる。交通手段として車以外にも街乗りに適した交通手段、公共交通が充実している。都市部に居住せずとも、都市部に行きやすくなり人口の分散が図れる。

### 35 移動（異動）が障害とならない社会

限定されている移動を新たなイノベーション（自動運転やVRなど）により移動の可否の選択も含めた移動手段の選択肢を様々な立場の人が考えることができる体制や環境を構築し、安心安全に交流する機会を創出する社会。

### 36 1つの拠点で全てが完結する暮らし

家に居ても、自分の望むものを手に入れたり、働いたり、運動したり、医療サービスが受けられたり…が出来る環境が整うのが一番いい。

人に与えられている時間は平等なので、限りある時間を有効に使えていると感じられる未来があればいい。

### 37 快適に外出できる地域

自動車道ならびに自転車道が整備されており、慢性的な渋滞がなく、快適に外出ができる。また、自動車だけでなく、自転車にも追突防止装置が整備されており、人身事故が発生しない安心・安全なまちとなっている。

### 38 地域の安全安心な移動

自動運転の発達により、交通手段が自動運転を登載した置き換わることで、年齢などで移動にハンデがある人や子供であっても気軽に移動できるようになる。

それによって、街中の交通全体が自動化され、非自動運転車両であっても障害物認識技術の

登載が標準となるので、交通事故ゼロが実現され、誰もが安心して生活できるようになる。

## <進化する自治体 関連>

### 39 ICT技術で豊かになる社会

ICT化そのものを目的にするのではなく、ICT化により自由時間の創出（インターネットやテレワークの利用、AI化による単純作業の削減・精度向上）や自由な働き方の実現等、生活が豊かになる方面に進んでほしい。

### 40 全県民の積極的なICT活用

全県民が積極的にICT活用できるような支援や事業、学びの場の創出、主体的な学びを促すシステムの構築が必要。

### 41 県庁イメージチェンジ

役所というと、堅いイメージやとっつきにくい雰囲気強い。また、公務員は発言や行動に制限があったり、副業ができなかったり、外の社会との繋がりが狭まってしまっている。

兵庫県が先頭を切って、悪い印象を打破できれば、県民との距離も近くなりより県民に密着してサービスをお届け出来る。

### 42 行政手続きの電子化

デジタル化により、様々な行政サービスの電子申請が可能に。

庁舎への来客数減少し、職員のテレワーク化が進むことで、大規模な庁舎を構える必要がなくなり、行政施設も「集中」から「分散」への時代が到来する。

全自動のロボット手術機の発明や、遠隔操作により操縦可能なロボット手術機の拡充が進み、地方に居ながら最先端医療を受けられる。

### 43 愛着が形成される地域

地域の課題解消や、より良い地域創りのために必要なアイデア、人材、資金等と、技術や人

材を供給したい企業や地域貢献を望む住民とのマッチングを、情報を蓄積したビッグデータを活用して自治体が支援することで、企業や住民主導の社会を実現できる。

良く知り慣れた地域、知識や労働力、資金を通して、自分たちが創りあげた地域という意識は、代々引き継がれる愛着を形成する。

## 44 マイナンバーカードの進化

マイナンバーカードの利用用途が増加しており、窓口へ行かなくても住民票を移すことや登記手続き等が可能となっている。

また、兵庫県の取組として、県内の観光地へ行くことや買い物することによりポイントが付与され、特産物との交換等にも利用可能となっている。

## 5 美の創生（7 シナリオ）

健康にも環境にもいい、持続可能な生活スタイルの実現や、山林の活用、生態系の持つ価値を正しく評価して次世代へつないでいくなどの未来を望む声がありました。

### <ともに創るまち 関連>

- 1 近場を楽しむ生活
- 2 ロハスな街づくり
- 3 思い出が残るまち

### <甦る豊かな自然 関連>

- 4 甦る山林
- 5 土地利用の見直し
- 6 自然を活かす

### <広がる生活文化産業 関連>

- 7 世界で人気の旅行先兵庫

### <ともに創るまち 関連>

#### 1 近場を楽しむ生活

- ・遠出しなくても近所に活動拠点がある（山やまちへの散策、文化活動）
- ・子どもと出かけられるような低い山や自然が多い。整備も行き届いている
- ・モーニングやランチを食べられるお気に入りの店が身近にある
- ・小さくても経済的な自立を目指すまち
- ・学生や若者が積極的にチャレンジできる。
- ・チャレンジしたい人が移住したくなる

#### 2 ロハスな街づくり

健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイル（LOHAS（Lifestyles of Health

and Sustainability)) が実現できる街になっている。

### <快適な道路網の整備>

自然にも環境にもいい交通手段である自転車で、快適に走ることができる交通路網が整備されている。

### <LOHASの拠点となる公共施設>

公共施設が充実しており、コワーキングスペースや多目的スペース、ヨガなどの運動が自由にできる広場がある。

### <再生可能エネルギーの利用>

街のエネルギーはその地域の特性を生かした自然エネルギーを使用している。

### <環境負荷の低い暮らし>

住宅の庭が広く、家庭菜園ができる。また、野菜くずなどはコンポストを作り利用することで、生ごみを削減する。

環境負荷の低い素材である地域木材を利用した生活をしている。家は木造住宅とし、木材やセルロースファイバーでできた日用品を長く大切に利用する。

### 3 思い出が残るまち

子どもの頃遊んだ公園、学校帰りにいつも立ち寄っていた食堂・喫茶店、通学路の景色、漁師やおじいちゃん、おばあちゃんが井戸端会議する風景。技術が進歩し、どんどん便利になる一方で、そういった小さな、ローカルな思い出が残るまち。

### <甦る豊かな自然 関連>

#### 4 甦る山林

山林は里山、経済林、奥地林に分類され、それぞれの特徴に合わせた形態で管理され、山間地域の生活や経済を支えている。

#### <懐かしい里山の暮らし>

里山は、キャンプでのたき火や住宅での薪ストーブのための薪を集めたり、有機農業の肥料を作るために落ち葉を集めたり、地域によって有効に活用されている。

#### <魅力的な林業>

ICT技術を駆使して、需要に最適な供給を提供できる体制ができており、収益率が高くなっている。新しい木材のマテリアル利用により、山間地域に新しい産業が生まれ、経済が潤っている。

#### <公有化する奥地林>

林業に向かない奥地林は、森林の公益的機能を高めるため、自治体はその森林の生育環境に合わせたやり方で管理している。

### 5 土地利用の見直し

農地や林地の整理を行い、ヒトの生活に必要な土地を必要な面積のみ、地域で管理する。居住地はある程度集約化し、農地は肥沃な場所を中心に利用する。獣害防護柵は、集落側を守るように設置する。耕作放棄地は森林へ誘導し、地域で利用する。地域で利用しない山間部の急傾斜地の森林については公用とし、公益的機能を発揮させるように管理、また極力手のかからない森林へ誘導する。

勇気を持って管理出来る部分だけを残し、手放すことが逆に私たちの生活が豊かにすることもある。また、次世代の責任や負担を小さくすることもまた次世代に残せることのひとつではないか。

### 6 自然を活かす

- ・現在も多く残る希少種や固有種のいる環境をベースに、適正な保護・個体数の管理を進める。
- ・生物多様性、生態系サービス等、生態系の持つ本来の「価値」を正しく評価し、次の世代へつないでいく。
- ・空間の管理の一つの手法として、動植物を人間がうまく管理しながら、広大な県土を維持する。

### <広がる生活文化産業 関連>

#### 7 世界で人気の旅行先兵庫

- ・障害のある方でも、安心して旅行できるようバリアフリーの推進
- ・祈祷室が観光スポット、駅などに整備
- ・ハラール、ヴィーガン等料理、食材取り扱い店の増加
- ・ミシュラン等に掲載されるような、世界的名店の増加
- ・高級ホテル、地域の暮らしが体験できる宿泊施設など、多様な宿が選べる環境
- ・兵庫県内の公共交通機関利用料の割引

## 6 次代への責任（17 シナリオ）

ICTやロボットを活用した災害対応や、個人の災害既存施設の維持管理が容易になるなど、頻発する災害、迫り来る大災害への十分に備える未来を望む人が多かったです。

### <人に投資する社会、開かれた学校 関連>

- 1 情報教育の充実
- 2 幅広い教育
- 3 健やかに成長できる社会

### <カーボンニュートラルな暮らし 関連>

- 4 資源の地産地消
- 5 気候危機を克服する脱炭素社会
- 6 「消費するとき」の影響を見据えた生産活動

### <危機に強い地域、安全を支える強靱な基盤 関連>

- 7 ICTの災害分野へのさらなる活用
- 8 災害時における状況把握とロボット活用

9 自分で考える安全な暮らし

10 いつくるかわからないその時に強い自治体

11 個人の災害対応力が育つ

12 災害を最小限におさえる環境づくり

13 デジタル化する防災・減災

14 自然をコントロールし、有効活用

15 災害・交通・景観に優れた無電柱化が完了

16 既存施設の維持管理が容易になる未来

### <受け継がれる地域 関連>

17 愛着を育てる生活

### <人に投資する社会、開かれた学校 関連>

#### 1 情報教育の充実

学校教育の一環で情報教育をより拡充させ、最低限度の情報知識を身につける環境づくりが今後必要になる。

#### 2 幅広い教育

社会には様々な問題があることを紹介し、それが発生してしまう原因となる物を見つけ、解決策を検討していく。また、それを支援していく制度や社会活動なども伝えていく。

学生がそれらを的確に捉えるために必要な思考力や社会に還元できるアウトプット能力を開発していくための取組も必要。

#### 3 健やかに成長できる社会

「地域の子は地域で育てる」の精神のもと、虐待やネグレクトに苦しむ子どもが早期に見られ、子ども全員が健やかに成長している。

### <カーボンニュートラルな暮らし 関連>

#### 4 資源の地産地消

都市近郊型の農業を生かし、家畜のフンを堆肥化し、育てた作物を販売したり、住宅等で出た生ゴミを活用したバイオガス発電による消化液は農業に使用し、電気は住宅等で使用する。

資源の地産地消を進めることで、自然を守るだけでなく、そこに住む地域の人が地域のことを理解することにも繋がる。

#### 5 気候危機を克服する脱炭素社会

- ・住宅・ビル等への太陽光発電の設置や蓄電池、燃料電池の標準装備等により全ての新築建物がゼロエミッション化している。
- ・産業界では、鉄鋼業における水素還元製鉄技術など水素が最大限に活用。製造プロセスで発生するCO<sub>2</sub>は回収・地中に貯留されている。

## 6 「消費するとき」の影響を見据えた生産活動

目の前の短期的消費に限らず、長期的な消費サイクルを見た上での環境への影響に注視する未来になるべき。

### <危機に強い地域、安全を支える強靱な基盤 関連>

## 7 ICTの災害分野へのさらなる活用

災害の予防においては、ゲリラ豪雨や線状降水帯の予測の精度が高まるとともに、降雨量や河川の氾濫する可能性をもっと早くから予測し住民の避難や対策が前倒しで行えるよう、予報機能がより充実することに期待したい。

災害発生時においては、自治体の持つ情報を早く正確に伝えるためのプラットフォームの整備や、通信インフラが途切れないようにするための基盤整備を進める必要があると考える。

また、ICTの活用により、被災したあとの情報共有や状況の分析が迅速に行えるようになり、被災者に対して必要な支援体制が速やかに構築できるように活用されることに期待したい。

## 8 災害時における状況把握とロボット活用

衛星画像の高画質化が進み、リアルタイムでの映像受信が可能となり、災害時における被害状況把握が可能となり、より効率的な（被害状況に応じた）救助・救出活動が可能になる。

また、災害時におけるロボットの活用が進み、人が入れない現場での活動や体温等を基にした捜索など、人命の生死の分かれ目となる災害発生時から72時間以内における救助・救出が格段に上がると期待できる。

## 9 自分で考える安全な暮らし

行政が啓発や情報提供することは必要だが、それぞれが情報を見極め、自分自身を守れるような社会であればいい。

## 10 いつくるかわからないその時に強い自治体

・2050年には各種マニュアルがAI化。そのとき

最優先で取るべき行動の分析、指示が可能に。

- ・職員の安否確認や被害状況等もAIを通じて共有でき、迅速な対応につながる。
- ・瞬時に広域的な情報収集が可能となり、必要物資の迅速な把握と配送ができる。
- ・自動的に災害対応を記録し、より鮮明に教訓として次代に繋ぐことができる。

## 11 個人の災害対応力が育つ

自分が住んでいる地域の特徴を知ることはもちろん、県内の臨海部山間部どこでも対応できるよう、防災の備えが生活の一部になる。設備や物資を準備しやすい環境が整う。

知識だけでなく、すぐに体が動くよう定期的な準備をしているので、災害が起こることが当たり前で、県民ひとりひとりが最善の行動を考え出す力がついている。

## 12 災害を最小限におさえる環境づくり

一歩前で災害を予防すべく台風や線状降水帯等を軽減させられるような仕組みを開発し、降雨量が多くなりすぎないようにコントロールする。

さらに、農作物の栽培には気象と密接に関係しており長期的に日照不足・長雨が続くのであればコントロールすることで、市場へ安定して農作物を供給することが可能になる。

## 13 デジタル化する防災・減災

### <安心・安全な生活拠点>

ソーラーパネルによる「創エネ」、「蓄エネ」やHEMS（ホームエネルギーマネジメントシステム）を活用したエネルギー使用量の“見える化”により「省エネ」が実現し、在宅避難者が復旧までの間、日常生活を送ることができる。

また、災害時に通電を自動的に遮断する感電ブレーカー等のIoTを採用した最新の耐震構造技術を取り入れた建造物が増えることで二次災害を抑制できる。

### <多文化に対応した避難所運営>

あらゆる言語をリアルタイムで翻訳・通訳するシステムの運用やピクトグラムにAR(拡張現実)を活用するほか、自動配送車による迅速な食料の配達により、作業が効率化され、誰でも快適な避難所生活を送ることができる。

### <地域ぐるみの危機管理>

地区単位やご近所とSNSによるコミュニティが形成されており、どこでも危険情報を素早く共有。被災者情報の共有化により、孤立集落であってもピンポイントに支援できる。

## 14 自然をコントロールし、有効活用

- ・地震の発生を正確に予測可能に。あらかじめ避難することができ、死傷者が激減
- ・台風や雨の威力を弱めたり、水不足の地域に雨を降らせたりできる技術の開発
- ・地震の揺れや落雷、火山の噴火のエネルギーを使って発電

## 15 災害・交通・景観に優れた無電柱化が完了

### <自然災害の被害減少>

台風や地震に伴う電柱の倒壊等により引き起こされる停電・火災・通行止め等の被害は、

無電柱化によりなくなる。

### <交通事故の被害減少>

無電柱化し道路の有効幅員が広くなることで、道路の拡幅工事をしなくても交通事故の減少や車椅子利用者の動線確保が可能になる。

### <地域景観の魅力向上>

無機質な電柱を無くすことにより、地域の景観をより際立たせることが可能である。景観が良くなることで、観光産業が活性化する。

## 16 既存施設の維持管理が容易になる未来

働き手が減少していく中、施設の維持管理に人と時間とお金を割くには限界があるので、そこをもっと人手とお金をかけずに実施できる未来であればいい。

### <受け継がれる地域 関連>

## 17 愛着を育てる生活

兵庫県の風土や文化を教育やイベントを通して再認識し、兵庫県への愛着を深め、地域で活躍する人材を育成する。

学校教育やイベントを通して、各地域で行われなくなった祭りや食料を復活させ、学習する。